

社団法人日本外洋帆走協会

平成2年6月15日発行(毎月1回15日発行)

昭和52年7月21日第三種郵便物認可

定価300円

Offshore¹⁹⁹⁰6

No.182



90's GINZA STYLE

楽しむ、生活プリンセス。



GINZA STYLE——

それは、装い、マインド、生き方のすべてに流れるエレガンスです。

“90's GINZA STYLE”は、

21世紀へのプレリュードにふさわしく、

一楽しむ、生活プリンセス—をテーマに未来へはばたきます。



MITSUKOSHI

銀座

〒104 東京都中央区銀座4-6-16

TEL/03-562-1111 (大代表) ●月曜定休

初夏の レース アルバム



オレンジカップ P.6~7



スプリングカップ・イン宝伝 P.22~23



関東三ドルボート選手権 P.4~5



対島・釜山・グアム親善レース P.12~13



BMW関東選手権 P.26~27



'90 GOLDEN WEEK SERIES taka-Q Cup

ミドルボートの祭典、第2回関東ミドルボート選手権、今年は㈱タカキューの支援を受けて、主催者側の期待をはるかに超えた参加54艇が相模湾でG-WEEKのメイストームにチャレンジしました。

UFO復活

UFO・スキッパー 尾田英明

日本海を低気圧が縦断している中、今回のシリーズが開催され、当然雨と南の強風が予想された。しかし初日は全くその兆候は見られなかった。

第1レース：N2～3%15°アウター有利なスタートライン、W→Eほんの少しの潮があった。

当然スピードをつけアウターから飛出し西に20°風が振れ1タックで上マークへアプローチ、ツパマロスやラハイナを振り切りそのまま逃げ込んだ。

第2レース：W2～3%ラインはイーブンで0.5ノット程度の向潮。ジブをサギングさせ、艇速をかせぎ乗り切った。上マークを回る頃から風は落ちはじめ、タイムリミットが気にかかる。またもやコース短縮、何かとギリギリでフィニッシュするが、リベラと我艇以外は、DNFで得点差が大きく開いた。レース運営

は、レース時間を適切にコーディネートすべきだと思います。

コース短縮後でこれだけのDNFがある事に疑問を持っている方は大勢いると思います。

第3レース：S10～12%IOR2度のゼネリコで強風の中、約1時間も待機、約1分出遅れてスタート、チューニングが悪く上り角度が5°位

落ちている。捨てレースと決め、明日ガンバロウと気合いを入れたが、5日の4、5レースは荒天で中止となり、3レースの結果何とか優勝を手に入れた。スタッフの皆さんご苦労様でした。

IOR優勝

AFRODITA jr. 田辺光男

私達アフロデイターjrは、艇名の通り昨年のワールド出場メンバーの半数以上を後進に道を譲り、新人のレベルアップを目的に入替を行い、約2年後に目標をたて、4月より練習を開始しました。またこれを期にファーからYOK32Sに代船を行いトレーニングは2、3回という状況の中でミドルボート選手権を迎えることになりました。

コーチとしてクルーと顔なじみのYK香港のジョンプリンガーズを招き、レースを楽しみにしていました。レース中はジョンよりポジション



と的確なアドバイスを受け、終始
笑いの絶えない楽しい雰囲気の中で
楽しみました。

今回のシリーズは、私達jrにとっ
て有意義な練習であったことは勿
論、思ってもみなかった優勝という
文字を手にしたことが大きな収穫
でした。

CRベストアマ

リブラ スキッパー 植村貞道

レースに参加したく、シーボニア
に艇を陸路はるばる秋田より持ち込
んだのが昨年のことです。

当初はSTC・鳥羽レース出場に
目標を定め、艇のチューニング（未
だに殆どノーマル）クルーの確保を
行い、急遽ミドルボート選手権のC
Rクラスに参加することになりました。
ウインドジャマーとフライング
ティンカーベルの混成チームが出来
上りました。

レースでは先行艇IORの位置を
参考に、丁寧に風を拾い、いつのま
にかIORの中程を走っていました
特に第二レースは最終マークを回り
UFOの追従を退けてのフィニッ
シュは最高の喜びでした。

表彰式での『ベストアマチュア賞
秋田から参加のリブラ』の心地よい
コールはクルー一同の心に残り、



オーナーは帰りの夜行寝台の車中、
ひとりで祝杯をあげたことでしょう。

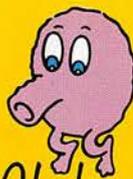
IORベストアマ

インデペンデンスV 平松 隆

私達のチームは会社の同僚を中心
とした猛烈サラリーマンと学生で構
成されたアマ集団で、練習をしたこ
とがほとんど無く、いつも本番とい
う不真面目なチームです。

レースに際しては『強力な助っ人
にお願いする』という誘惑と戦いつ
つ、オリジナル・クルーでレースを
楽しむことをポリシーとして活動し
ています。

今回もゴールデンウィークという
家庭サービスに重要な位置を占める
時期にレースが行われたため、会社
の新社員を無理矢理乗せたりして
クルーを揃えるのに苦労しました。
そして並いる強豪のみさんのなか
で総合4位、最大の目標にしていた
ベストアマをとって大変満足をして
います。



Middle Boat Club

第16回オレンジカップレース 悪天候の中、“DONKY V”が制す!

写真/舵・岡本甫



第2レース、上マークにアブローチする大型艇。“TOGO X”、“DONKY V”、“CHA CHA”と続く



第4レースのスタート・シーン。故谷川晴彦氏の“寅丸”が本部船を務めた

マリンリゾート淡路島を代表するスポーツイベントであるオレンジカップレースは、今年もサントピアマリナーをベースにして、5月3～5日のゴールデンウィークに開催された。期間中はあいにくの天候で、雨にはたたられたが、ウインド・コンディションは微風から中風までバラエティに富み、関西を中心に西日本を代表するレーサーが54艇も参加し、白熱したレース展開となった。

初日、オリンピックコースの第1レースは微風。大型艇が修正でも1～4位を占め、最近の大型艇の微風での走りのよさが目についた。“SWING”はこのレース、リコール（PMS）でやや出遅れた。

続く第2レースは軽風の中、やは

り大型艇の走りのよさは変わらず、上位をキープする。この日、ハーフトン勢も必死の走りを見せるが、修正ではシングル後半と一步届かず。

2日目の第3レース、従来の沼島回航コースは今年より変更され、関西新空港コースとなり、大阪湾内のインショア・レースとなった（友ヶ島水道の潮流、沼島のブランケット等、トリッキーで先の読めないレース展開が予想され、賛否両論がうずまいたのではあったが…）。

しかし、この新コースでの初めてのレースは、朝から20%という強風レースとなった。途中回航点付近は風が弱く、各艇一息ついたものの、フィニッシュ付近では再び風が強まる。“TOGO V”がディスマストしたほかは、各艇トラブルもなく無事終了し、ハーフトンが2、3位に入る健闘を見せた。

3日目の第4レースは安定した中風の中、修正では大型、小型が入り乱れるシビアなレースとなった。

4レースを通じ、風が比較的安定していたためもあってか、やはり大型艇有利といえ、その中でも第4レースこそスコアを崩したが、得点係数の高い第3レースで1位となった“DONKY V”が初優勝した。2位には安定して上位を走った“CACHA”，3位にはハーフトンの“SERVE”という結果となった。

なお、オレンジカップレースの生みの親、育ての親であり、第1回より昨年までレース委員長を務められた故谷川晴彦氏の生前の意志を引き継ぎ、今年より谷川晴彦杯が設けられることになった。これは「全レース完走すること」、「船令は古くともよく整備され、レースに熱意をもってチャレンジしていること」等、どちらかといえば新艇以外でトラブルなく努力した艇を基準に、レース委員会により選考される。第一回目の受賞艇は、“白鯨III”に決定した。

(成績10P)



優賞した“DONKY V”。端正なセーリング・フォームを見せる↑



小型艇のトップとして3位にくい込んだ“SERVE”（第2レースより）↑



今年より設けられた谷川晴彦杯は“白鯨III”へ。↑
第3レースは20m/sを越える風が吹いた

駿河湾支部春のフリート対抗レース

駿河湾支部90年春のフリート対抗レースが本年も5月3日～4日に開催された。本年はNORC浜名湖フリート結成もあり、浜名湖より2艇が参加、艇数として沼津も合せて13艇となった。

3日第1レース、北風微風1～2%、オリンピックコース、くもり、スタートは10時。第一レースとあってみんな気が入っていたと見え、ゼネラルリコール。2回目はジャストスタート。微風で潮流がある中、“プリマ” (NM68)、“ダンデライオン” (TK39) がよく滑っている。最終マークを回るころになると風が落ち、一時はまったくの無風になる。“ダンデライオン”は残ったブローを拾いフィニッシュしたがすぐ後にいた“アンフィートリーテ” (J29)、“バーゴ” (YR30)は止まってしまった。その後風は南西に振れ“ベルム” (X-3/4) “一寸法師” (YR34) が走り出す。“バーゴ”はこれら2艇に抜かれ順位を下げた。修正では1位“ウインターレディー” (TK23)、2位“アンフィートリーテ”、3位“ダンデライオン”。

3日第2レース、南西の風4～5m、オリンピックコース、くもり、スタートは1時。南西の風が4～5%に上る。第一マークは本船の陰になり見えないがコミティーから18



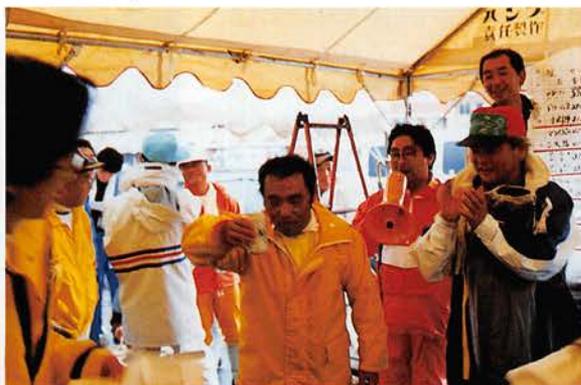
0°の指示が出る。第1マーク、“プリマ”、“ダンデライオン”、“アンフィート”の順で第二マークへ向う。激戦の4着争いは最終マーク、“乙天馬”、“バーゴ”、“ベルム”の順でマークにアプローチ、“バーゴ”のスターンを“ベルム”が中に入りかわすが、その差は僅差。“バーゴ”がフィニッシュ直前、“乙天馬”にスターボードを掛けられマークの外にはじき出されてしまい、“乙天馬”はすかさずタックを返す。バーゴとの差は1艇身もなかった。

このレース上位艇を見ているとIORレーサーと、IMS艇が混戦となっている。

結局、“ウインターレディー”が

着順13位ながら修正1位。2位“ダンデライオン”、3位“バーゴ”。

4日第3レース、南西の風2～8%、雨、ショートオフショア。4日のレースは海洋文化祭との混合レースとなり艇数も28艇とふえた。10時、微風の中バーゴがいいスタートを切る。速い艇はスタートもよく“ダンデライオン”、“アンフィート”、“ベルム”が続く。上マークまで潮が強い。上マーク、“プリマ”、“ダンデ”、“乙天馬”の順で回り、スピンを展開、観覧船がいているので失敗はできない。全艇スピンを上げ由比の下マークまでの半分ほどいった所で風速が上がってくる。“アンフィート”、“乙天馬”、“バーゴ”の後に“ベル



このレースはヨットオブザイヤー選考のレースの1つ。サントリー(株)よりご提供のビールでパーティーも盛り上がった

ム”, “マンボー” (J29)。上位艇はあまり差がない。7~8%と強くなった南西の風に乗って後続艇の中から“一寸法師”, “ウインターレディー”が抜け出し先行艇に迫る。“ウインターレディー”のスピードが速い。下マークは, “プリマ”, “ダンデライオン”, “アンフィート”と回り“乙天馬”, “バーゴ”と続く。“マンボー”は先行艇を見てジブ交換。その最中について“ベルム”が下マークで“マンボー”をかかわす。フィニッシュまでは上りのコース。“アンフィート”, “乙天馬”, “バーゴ”, “ベルム”, “マンボー”, “一寸法師”でタックキングマッチ。“アンフィート”上り角度が悪く順位を落す。“乙天馬”はオーバーキャンバスでジブ交換を行うが, その後すばらしい速さで抜け出す。“バーゴ”がスターボードで“ベルム”とミート, “ベルム”が下受けてタック, “マンボー”を押えるため“ベルム”は再びタックを返したが, このタックで“バーゴ”を抜き, そのままフィニッシュラインへ。“ベルム”, “バーゴ”, “マンボー”, “一寸法師”と50秒の間に4艇が入る。修正では1位“ダンデライオン”2位“バーゴ”3位“ベルム”。“ダンデライオン”と“バーゴ”は修正1秒差の激戦となった。

第3レースは得点係数が高く, 第3レースの結果がそのまま総合1位, 2位, 3位となった。第1, 第2レースで1位をキープしていた“ウインターレディー”は第3レースは着順12位と落ち, 総合でも6位にとどまった。総合1位“ダンデライオン”, 2位“バーゴ”, 3位“ベルム”。チーム総合には“ダンデライオン”, “アンフィートリーテ”組が輝いた。今回のレースはヨットオブザイヤー選考レースとなりサントリー(株)様よりビールの差し入れなどもあり, 雨の中, 表彰スピーチも盛り上がった。3, 4日とコ

チーム別成績表

チーム名	第1レース		第2レース		第3レース		総得点	チーム順位
	得点	合計	得点	合計	得点	合計		
ダンデライオン	21	43	22	42	34.5	57	142	1
アンフィートリーテ	22		20		22.5			
ベルム	17	37	19	37	31.5	58.5	132.5	2
プレアデスクラスタ	20		18		27			
バーゴ	19	33	21	37	33	52.5	122.5	3
ジンジャン III	14		16		19.5			
一寸法師	18	30.6	14	30.6	30	55	116.2	4
ドリーム 3	12		15		28.5			
アンフィニイ	16		17		24			
プリマ	15	38	12	35	16.5	34.5	107.5	5
ウインターレディー	23		23		18			
マンボー 6	13	24	10	23	25.5	46.5	93.5	6
乙天馬	11		13		21			

3艇の場合は3分の2として計算

艇別成績表

艇名	第1レース		第2レース		第3レース		総得点	艇別順位
	順位	得点	順位	得点	順位	得点		
ダンデライオン	3	21	2	22	1	34.5	77.5	1
バーゴ	5	19	3	21	2	33	73	2
ベルム	7	17	5	19	3	31.5	67.5	3
プレアデスクラスタ	4	20	6	18	6	27	65	4
アンフィートリーテ	2	22	4	20	9	22.5	64.5	5
ウインターレディー	1	23	1	23	12	18	64	6
一寸法師	6	18	10	14	4	30	62	7
アンフィニイ	8	16	7	17	8	24	57	8
ドリーム 3	12	12	9	15	5	28.5	55.5	9
ジンジャン III	10	14	8	16	11	19.5	49.5	10
マンボー 6	11	13	DNQ	10	7	25.5	48.5	11
乙天馬	13	11	11	13	10	21	45	12
プリマ	9	15	12	12	13	16.5	43.5	13

オープンレース成績表

Sail-N	艇名	TCF	艇種	所要時間	着順	CT	順位
3887	ダンデライオン	0.8113	TK-39	2H 17M 28S	2	6692	1
4023	バーゴ	0.7427	YR-30	2 30 12	5	6693	2
3515		0.7559	X-3/4	2 30 5	4	6807	3
3130	一寸法師	0.7535	ヤマハ34R	2 30 57	7	6824	4
3840	ドリーム 3	0.7301	YA-30ST	2 37 52	9	6916	5
2499	プレアデスクラスタ	0.7269	ナカヨシ295R	2 39 19	10	6948	6
4277	マンボー 6	0.7699	J-29	2 30 47	6	6965	7
4058	アンフィニイ	0.7269	YOK-29	2 41 26	11	7041	8
3756	アンフィートリーテ	0.7699	J-29	2 32 55	8	7064	9
25	エルザ	0.6600	ソレイユボソ	2 58 38	14	7074	10
4191	乙天馬	0.8059	X-99	2 28 20	3	7173	11
3763	ジンジャン III	0.7290	YA-30C	2 44 4	12	7176	12
3274	ウインターレディー	0.6741	TK-23	2 58 51	15	7234	13
29	HS	0.7200	J-24	2 47 38	13	7242	14
4	たんぼぼ	0.6000	リュンメ	3 31 54	21	7628	15
40140	プリマ	1.0951	NM-68	1 56 10	1	7633	16
23	オヨヨ	0.6300	YA-21S	3 27 15	20	7834	17
17	ラ・レジナ	0.7300	デハラ-32	2 59 0	16	7840	18
8	コマルジエ	0.7200	J24	3 7 30	17	8100	19
26	白竜	0.7000	ノーティック30	3 25 55	19	8649	20
20	ラプカ	0.6800	F727	3 32 14	22	8659	21
9	サイレイ II	0.7100	ナカヨシ30	3 24 53	18	8728	22
28	ミルキーウェイ	0.6500	ヤマハ26	3 45 37	24	8799	23
18	レイラ	0.6300	ヤマハ23 II EX	3 53 16	25	8817	24
16	まいまい	0.7200	ヤマハ30S	3 33 4	23	9204	25
11	バンパス	0.6300	チキータ24				DNF
27	アルパトロス	0.7200	フア-920				RET
24	ジュグタリス	0.6500	ヤマハ26				RET

ミッティをやってくださった渡辺さん, 浜名湖より遠征してきてくれた“バーゴ”, “ジンジャン”さんごろうさまでした。

記 小沢 達司

お詫びと訂正

5月号P.24新艇紹介欄, 真中の段7行目, 「現在の神輿にした…」は「神輿にした……」の誤りでした。関係者各位にご迷惑をかけたこととお詫びし, 訂正いたします。

'90 第16回オレンジカップレース成績表

SAIL	艇名	艇種	R	第1レース 係数			第2レース 係数			第3レース 係数			第4レース 係数			総合成績		
				05.03	1.00		05.03	1.00		90.05.04	1.500		90.05.05	1.200		得点	順位	
				着順	順位	得点	着順	順位	得点	着順	順位	得点	着順	順位	得点	得点	順位	
3215	DONKY V	FARR-43	33.55	4	4	51.00	2	3	52.00	1	1	81.375	3	1	2	235.975	1	
3538	CHA CHA	FARR-40	30.49	3	2	53.00	5	5	50.00	5	7	72.000	5	6	6	233.800	2	
4259	SERVE	YR-30 II	22.95	1	5	40.00	9	7	48.00	1	2	4	76.500	1	1	2	228.100	3
3926	HEART	YOK-30SR	23.07	5	5	50.00	7	6	49.00	1	9	1	58.500	1	3	3	219.900	4
3737	FIDELIA	TAKA-30	22.02	7	6	49.00	2	4	43.00	1	4	3	78.000	2	8	1	213.200	5
2857	HAKUGEI III	IKE-34	24.76	1	4	31.00	1	9	39.00	8	5	75.000	1	0	4	206.200	6	
3533	WIZARD M	HITEC-1/2	22.27	9	7	48.00	1	7	47.00	2	4	1	54.000	1	9	8	205.400	7
4105	CAPTAIN SANTA	Y-30S II	22.65	1	0	47.00	1	6	46.00	1	5	1	67.500	2	4	2	201.300	8
3669	I'M SORRY	YOKO-40	30.30	8	3	23.00	8	2	34.00	4	6	7	73.500	6	7	188.100	9	
3553	SWING	FARR-44	34.42	PMS	PMS	3.00	1	1	54.25	2	8	70.500	1	5	60.000	187.750	10	
2951	SOMETHING	Y-30S II	22.65	2	1	41.00	2	3	42.00	1	7	1	60.000	2	2	42.000	185.000	11
1725	SUMMER GIRL	YR-30 II	22.88	1	9	38.00	4	5	10.00	9	2	2	79.500	2	0	50.400	177.900	12
203	SPICA V	FARR-40	30.60	1	1	21.00	1	3	23.00	6	9	8	69.000	8	1	54.000	167.000	13
3455	IZUMO	Y-30S II	22.65	1	3	43.00	3	2	30.00	2	3	2	52.500	2	2	39.600	165.100	14
2852	SOUTHERN BREEZE II	DUBO-30	21.50	2	6	44.00	2	9	40.00	3	5	3	33.000	3	0	44.400	161.400	15
3999	EMI	YOKO-33R	25.13	1	8	29.00	1	4	44.00	2	9	2	39.000	1	4	49.200	161.200	16
3721	FAIRY 2	YOKO-30	22.10	3	1	36.00	2	7	37.00	3	3	1	36.000	2	1	48.000	157.000	17
3871	MIGHTY DUCK 3	N/M 10m	29.00	DNS	DNS	3.00	1	5	26.00	7	1	3	63.000	9	1	52.800	144.800	18
3826	CLARIS	J-24	21.20	2	9	45.00	4	0	25.00	3	1	2	42.000	3	9	30.000	142.000	19
3607	PENE LOPE II	YR-30	22.63	DNS	DNS	3.00	2	8	33.00	1	6	1	61.500	2	7	38.400	135.900	20
3537	WILL J	FARR-40	30.50	6	3	24.00	6	1	41.00	DNF	DNF	4.500	2	1	65.100	134.600	21	
3197	YOUNG RANGER	YOKO-32	23.00	DNS	DNS	3.00	1	8	45.00	2	6	2	45.000	2	6	36.000	129.000	22
3202	TOP OF THE MORNING	YOKO-32	22.75	3	2	34.00	3	5	22.00	2	2	2	49.500	3	8	20.400	125.900	23
3279	SACHI III	Y-34R	25.34	DNS	DNS	3.00	2	6	29.00	1	8	2	46.500	1	7	45.600	124.100	24
3566	TWO OF A MAIND	EUREKA-31	25.70	2	0	27.00	3	4	14.00	1	3	1	66.000	3	4	14.400	121.400	25
3841	JUST	YOKO-33R	24.92	1	2	33.00	2	0	38.00	DSQ	DSQ	0.000	1	7	46.800	117.800	26	
3400	AR 2	BEN EUR36	29.80	DNS	DNS	3.00	1	0	35.00	1	1	8	55.500	1	6	22.800	116.300	27
3020	SCARECROW	YOKO-32	23.00	1	7	39.00	4	6	8.00	3	2	2	34.500	2	9	34.800	116.300	28
3950	POISSON ROUGE	TAKA-1/8	16.60	PMS	PMS	3.00	4	7	28.00	3	8	2	51.000	4	4	33.600	115.600	29
1203	KORYU VII	YOKO-30	22.10	DNS	DNS	3.00	3	0	36.00	2	7	2	48.000	3	7	27.600	114.600	30
2211	CARINO	FARR-40	30.55	2	1	54.25	4	2	53.00	DNF	DNF	4.500	DNF	DNF	1.200	112.950	31	
2333	TOGO X	TAKA-44	35.09	1	3	52.00	3	4	51.00	RET	RET	4.500	DNF	DNF	1.200	108.700	32	
2676	YOI YOI	J-24	21.20	2	8	46.00	4	1	24.00	4	3	9	24.000	4	5	12.000	106.000	33
3302	TRYANGLE	HITEC-34	25.08	2	2	28.00	3	2	17.00	3	0	3	30.000	2	3	28.800	103.800	34
2867	TOUMEI	TAKA-32	23.11	2	3	35.00	2	6	32.00	4	5	6	13.500	3	6	21.600	102.100	35
	DECISION 3	DEHEL36db	27.20	1	5	25.00	2	5	13.00	1	0	3	25.500	1	2	37.200	100.700	36
1177	SAUSALITO	X-99	27.80	2	4	22.00	2	1	20.00	2	5	3	28.500	1	8	26.400	96.900	37
3853	MOANA	X-79	21.20	3	3	42.00	4	2	21.00	4	4	1	21.000	4	6	10.800	94.800	38
4200	PIED PIPER A	X-1ton	30.31	DNS	DNS	3.00	1	1	31.00	PMS	PMS	4.500	7	9	55.200	93.700	39	
3323	RYUSEI	YOKO-31	22.18	DNS	DNS	3.00	4	4	12.00	2	8	2	43.500	3	2	32.400	90.900	40
F920	TWO TON	F-920	22.65	DNS	DNS	3.00	3	6	18.00	3	4	3	31.500	3	3	31.200	83.700	41
4034	AURON 5	YOKO-30C	22.10	DNS	DNS	3.00	4	3	16.00	2	1	7	57.000	DSQ	DSQ	0.000	76.000	42
2311	BLUE WAVE	TAKA-34	25.20	2	7	26.00	3	7	11.00	3	6	4	19.500	3	1	18.000	74.500	43
3009	RANBLING ROSE	YOKO-31	22.02	DNS	DNS	3.00	3	4	27.00	4	1	0	22.500	4	2	19.200	71.700	44
3255	SUJAKU	YOKO-31N	22.55	3	4	32.00	5	1	4.00	4	0	4	18.000	4	3	15.600	69.600	45
3516	FORUM	YR-30C	22.60	2	5	37.00	4	8	7.00	DSQ	DSQ	0.000	3	5	25.200	69.200	46	
3445	WAKE UP	YOKO-30N	22.51	DNS	DNS	3.00	3	8	19.00	2	9	0	37.500	RET	RET	7.200	66.700	47
3182	NENE	NAKA295	21.45	DNS	DNS	3.00	4	9	9.00	3	7	3	27.000	4	1	24.000	63.000	48
4230	SHAFT	ELIOT 12m	43.50	DNS	DNS	3.00	1	2	6.00	3	2	8	40.500	4	4	13.200	62.700	49
1606	UMADORI III	SWING-31	23.40	3	0	30.00	3	9	15.00	4	2	4	16.500	DNF	DNF	1.200	62.700	50
3723	VENT VERT	YOKO-30	22.40	DNS	DNS	3.00	5	0	5.00	3	9	3	25.500	4	0	16.800	50.300	51
4080	CHUN	J-24	21.20	DNS	DNS	3.00	5	2	3.00	4	5	4	15.000	4	7	9.600	30.600	52
3765	M-PROJECT	JEAN SE37	28.80	DNF	DNF	1.00	DNF	DNF	1.00	DNF	DNF	1.500	DNF	DNF	1.200	4.700	53	
4106	KING TAM	Y-30S II	22.65	DNF	DNF	1.00	DNF	DNF	1.00	DNF	DNF	1.500	DNF	DNF	1.200	4.700	53	

BMW TOKYO CUP 関東外洋ヨット選手権シリーズ1990

チーム別成績表

チーム名	SAIL	艇名	オーナー名	TYPE	CL	R(ft)	T.C.F.	第1レース	第2レース	第3レース	第4レース	第5レース	合計	順位
油壺A	3660	青海波	清田 博	X-1	2	31.04	0.8171	17.00	12.00	19.00	18.00	0	66.000	
油壺A	355	SLEEPER	武部 喜一	NM42	2	32.64	0.8313	18.00	9.00	10.00	16.00	30.00	83.000	
油壺A	3530	SUMMER KNOWS	高村 宏	TAK34	4	24.74	0.7574	14.00	15.00	15.00	19.00	26.00	89.000	
								49.00	36.00	44.00	53.00	56.00	238.000	2
油壺B	3800	カラス	斜森 保雄	TAK-1	2	30.94	0.8162	19.00	13.50	21.25	21.25	38.00	113.000	
油壺B	4147	Char Chan	水原 和喜	TAK3/4	4	24.55	0.7555	10.00	22.50	7.00	15.00	42.50	97.000	
油壺B	3306	PIPPLE III	碓 俊弘	YOK30R	4	23.09	0.7405	12.00	25.50	20.00	13.00	34.00	104.500	
油壺B予備	3705	再見 (DIAMOND)	高橋 伸博	YOK30R	4	23.30	0.7427						0.000	
								41.00	61.50	48.25	49.25	114.50	314.500	1
シーボニアーン	3606	BOY	山田 隆	FAR40	2	30.72	0.8143	20.00	30.00	0	20.00	2.00	72.000	
シーボニアーン	1088	INDEPENDENCE V	平松 栄一	YOK30R	4	23.09	0.7405	15.00	18.00	14.00	3.00	10.00	60.000	
シーボニアーン	3002	シルフィード	浦谷 和行	FAR3/4	4	24.55	0.7555	8.00	19.50	17.00	10.00	24.00	78.500	
								43.00	67.50	31.00	33.00	36.00	210.500	4
シーボニアースターライト	3001	HALF TIME	田沼 英明	YOK35	4	25.90	0.7689	13.00	27.00	18.00	11.00	36.00	105.000	
シーボニアースターライト	3485	ISIS	北中 社彦	YAK30R	5	22.35	0.7328	6.00	24.00	11.00	9.00	12.00	62.000	
シーボニアースターライト	1155	一乗 III	鈴木 道雄	YOK31N	5	22.46	0.7339	9.00	21.00	8.00	8.00	20.00	66.000	
								28.00	72.00	37.00	28.00	68.00	233.000	3
逗子	3561	CAETLA	沼田 尚文	X-3/4	4	24.70	0.7570	11.00	16.50	2.00	1.00	16.00	46.500	
逗子	3809	シヤラク	熱田二士行	YAM34R	4	25.23	0.7623	7.00	6.00	13.00	5.00	22.00	53.000	
逗子	1978	SERENDIPITY V	中野 昭	YOK33	4	25.58	0.7658	16.00	7.50	1.00	14.00	40.00	78.500	
								34.00	30.00	16.00	20.00	78.00	178.000	6
葉山	3290	海太郎 V	千葉 育夫	FAR44	1	35.05	0.8520	21.25	31.875	2.00	1.00	2.00	58.125	
葉山	3839	海探隊	永田 敬二	HOL33	4	24.58	0.7558	0	10.50	1.00	7.00	18.00	36.500	
葉山	3295	蒼海	佐藤 三次	YAM38	3	28.29	0.7919	5.00	1.50	9.00	2.00	8.00	25.500	
								26.25	43.875	12.00	10.00	28.00	120.125	7
PSS	3224	LUCKY LADY	稲葉 文則	TAK46	1	35.52	0.8560	4.00	3.00				7.000	
PSS	4282	STAR&STAR	吉村 茂	DAV44	1	33.91	0.8423	0	4.50	12.00	12.00	28.00	56.500	
PSS	3201	青波行	原 均	TAK31	5	22.87	0.7382	0	28.50	17.00	6.00	14.00	65.500	
PSS予備	4272	PROPAGANDA	石渡 一夫	FAR40	2	30.67	0.8138			2.00	17.00	32.00	51.000	
								4.00	36.00	31.00	35.00	74.00	180.000	5

艇別成績表

チーム名	艇名	C	第1レース		第2レース		第3レース		第4レース		第5レース		合計	順位
			L	着順	得点	着順	得点	着順	得点	着順	得点	着順		
油壺A	青海波	2	5	19.00	7	13.50	2	20.00	4	20.00		0	72.500	13
油壺A	SLEEPER	2	4	20.00	4	10.50	4	11.00	3	18.00	3	34.00	93.500	6
油壺A	SUMMER KNOWS	4	9	16.00	15	16.50	8	16.00	7	21.00	9	30.00	99.500	5
油壺B	カラス	2	3	21.00	6	15.00	1	23.50	1	23.25	1	42.00	124.500	1
油壺B	Char Chan	4	12	12.00	9	24.00	16	8.00	8	17.00	7	46.50	107.500	4
油壺B	PIPPLE III	4	15	14.00	13	27.00	7	21.00	14	15.00	8	38.00	115.000	3
油壺B予備	再見 (DIAMOND)	4	17	11.00	11	28.50	6	22.00	17	6.00	12	26.00	93.500	7
シーボニアースターライト	BOY	2	2	22.00	2	33.00	DSQ	0	2	22.00	DNC	2.00	79.000	10
シーボニアースターライト	INDEPENDENCE V	4	11	17.00	19	19.50	13	15.00	20	5.00	19	12.00	68.500	15
シーボニアースターライト	シルフィード	4	14	9.00	12	21.00	9	18.00	11	12.00	10	28.00	88.000	9
シーボニアースターライト	HALF TIME	4	8	15.00	3	30.00	5	19.00	10	13.00	6	40.00	117.000	2
シーボニアースターライト	ISIS	5	19	7.00	17	25.50	14	12.00	18	11.00	18	14.00	69.500	14
シーボニアースターライト	一乗 III	5	18	10.00	16	22.50	15	9.00	19	10.00	15	22.00	73.500	11
逗子	CAETLA	4	10	13.00	14	18.00	DNC	4.00	DNC	1.00	14	18.00	54.000	20
逗子	シヤラク	4	13	8.00	21	7.50	11	14.00	12	7.00	11	24.00	60.500	19
逗子	SERENDIPITY V	4	7	18.00	10	9.00	DNC	1.00	9	16.00	5	44.00	88.000	8
葉山	海太郎	1	1	23.25	1	34.875	RET	4.00	DNC	1.00	DNC	2.00	65.125	16
葉山	海探隊	4	DSQ	0	20	12.00	DNC	1.00	13	9.00	13	20.00	42.000	21
葉山	蒼海	3	16	6.00	DNF	3.00	10	10.00	15	4.00	17	10.00	33.000	22
PSS	LUCKY LADY	1	6	5.00	8	4.50	DNC	1.00	DNC	1.00	DNC	2.00	13.500	23
PSS	STAR&STAR	1	DSQ	0	10	6.00	3	13.00	5	14.00	2	32.00	65.000	17
PSS	青波行	5	DSQ	0	5	31.50	12	18.00	16	8.00	16	16.00	73.500	12
PSS予備	PROPAGANDA	2	DNC	1.00	DNC	1.50	RET	4.00	6	19.00	4	36.00	61.500	18

対島・釜山・グアム姉妹島 親善ヨットレース

大会委員長 末松 明(玄海支部長)

釜山の影島、グアム島と姉妹島関係にある対馬(長崎県)を舞台に、3ヶ国親善レースが行われた。韓国からは韓国外洋帆走協会(K.O.R.A)の趙萬石氏をリーダーに15名が“シーウィフ”、“オリビア”(共にDOU33)に乗り込み釜山から回航しての参加。グアムからはマリナスヨットクラブ(M.Y.C)のジョージ・ジョンソン氏をリーダーに7名が玄海支部会員艇“VANGUARD”(VDO-36)と“玄鳥”(FC12)をチャーターして参加した。地元からは対馬セーリングクラブの“きたたき”(DOU-34)が、福岡からは13艇が済洲島レースを振り切って参加した。私は自艇“VANGUARD”にジョンソン氏のクルーとして乗り、M.Y.C.チームの腕前を拝見させてもらった。以下は“VANGUARD”から見たレース報告である。

* 5月3日

午前10時の艇長会議の後、スタート海面である浅海湾の竹敷(海上自衛隊基地)へ3時間かけて回航する。東の風12m、天気一雨、霧で視界が悪い。対馬の西側は波がないと思うが夜間が思いやられる。M.Y.C.メンバーは真冬並みの格好ているが、あまりのコンディションの悪さにビックリした様子。きっとグアムのトロピカルウインドを思い出しているのだろう。

午後6時40分スタート。上手の方にいいブローがあり小型艇がグングン出て行く。我々のまわりには大型艇ばかりが取り残されている。最悪のスタートになった。観覧艇からのヤジが聞こえてきそう。湾外に出ると北の風10m、ウネリがあるが

思ったよりひどくはなさそう。ジョージの命令でスピンをあげる。初めて乗った船なのにジョージのティラーさばきは素晴らしいの一語に尽きる。「イヨー! グアムの若大将!」。スピンジャイブを5~6回繰り返して対馬南端をかわす。逆潮とブランケにつかまり、イルワ、イルワ10艇ほどが目前にかたまっている。ここが腕のみせどころ、年増なれど相性のいい愛艇にムチ打ってなんとか前に出た。前方に灯は何も見えない。ゴールまで後2時間だ。

“飛梅”(TAK-49)はどのあたりにも思っているといきなり「“飛梅”ゴール」の無線が入ってきた。一同ガックリ。しかし、外人さんの精神力は凄い。あるかなしかの風を拾い、潮に戻されながらやっと思いでゴールした。結局、着順2着、修正2位で第1レースを終了した。

* 5月5日

昨日までの雨続きが嘘のような晴天。“玄鳥”がマストトラブルの為、急速M.Y.C.チャレンジチーム全員が“VANGUARD”に乗り込む事になった。総員11名、チョット重い。スタートから折り返し地点までの往きのレグをジョージが、マーク回航からフィニッシュまでの帰りのレグをやはりM.Y.C.のデイブ・モランがティラーを引くことにした。デイブは“玄鳥”のスキッパーとして活躍するはずだったが、不運にも実力を発揮するチャンスに恵まれず、わずか1時間半のレグに全力を注いだ。

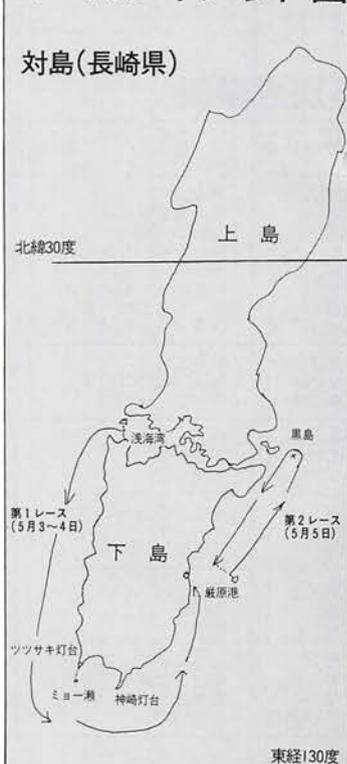
午前11時スタート。一昨日ほどの風はない。軽風のコンディションに加え、重量オーバーの為か艇速が悪い。往きのスピンランではハーフト

ン勢をなかなか引き離せなかったが、帰りのレグでは吹き降ろしのブローをうまくつかみ、着順4着、修正2位でゴール出来た。

K.O.R.Aの2艇は、今までの『アリランレース』のようなただ親善の為だけの参加ではなく、勝つ為に遠征してきた姿勢が伺えた。その結果、第1レースの“シーウィフ”修正3位、“オリビア”4位という健闘ぶりに表れたと思う。来年の『アリランレース』が楽しみになってきた。

日本艇では当然といえば当然だが第1レースでブッチギリの走りを見せて完全優勝した“飛梅”、そして第1レースでの涙のリタイアにもめげず、第2レースで見事優勝を果た

コースレイアウト図



した“ステラ”(TAK-32)の走りが光っていた。



二宮会長、西山禅寺の田中和尚を始めとする対馬セーリングクラブの皆さんのお蔭で、私達はレースに専念することが出来ました。バースの手配からなにかにまで運営ご苦労様でした。又いつもパーティ会場で料理を運んだり、ビールのお世話等をして下さるセーリングクラブメンバーの奥様方も本当にご苦労様でした。来年の第10回『アリランレース』もよろしく願います。

最後にM.Y.C.とK.O.R.A.から早速お礼の手紙が届きましたので紹介させて戴きます。(到着順です)

N.O.R.C.玄海支部会員の皆様へ

M.Y.C.チャレンジチーム代表

“バンガード”スキッパー

George L. Johnson

前略

5月3日から行われました対馬・釜山・グアム姉妹島親善ヨットレースでは、大変お世話になりました。

3つの姉妹島を集めてのこのイベントは、私達グアム・マリアナスヨットクラブ(M.Y.C.)メンバーと、釜山・対馬セーリングクラブとの友好を広げるのに大きな成果を

らし、又、福岡の玄海支部とM.Y.C.との友好関係は、昨年『オークランドー福岡ヤマハカップ』に続いて、益々深いチームとして行動ができた事を喜んでおります。

対馬の町村会・会長様をはじめ、政府関係の方々、対馬セーリングクラブのメンバーと、そして玄海支部の人々と見事なチームワークでこのイベントを進め、きめこまかく動きまわっている姿は、私達のグアムではみられない美しいもので、ただただ感動するばかりでした。

皆様の暖かい心は、日頃なれない第1レースの寒い低気圧をも吹き飛ばし、強いレーサーとしてレースに集中できた事、そしてマスト破損し

た“玄鳥”(玄海・グアム混成)のグアムクルー達を第2レースでは自艇“バンガード”に全員乗せて、重たくなった艇にむち打って微風の難しさと、強い潮の流れに頭を痛めながら走らせた事等、今思うと本当に楽しい思い出が沢山出来ました。

ご協力戴きました皆様にどうぞよろしくお伝え下さい。本当に有難うございました。



表彰式でのM.Y.C.チーム(グアム)

N.O.R.C.玄海支部会員の皆様へ

韓国チャレンジ・チーム団長

“シーワイフ”オーナースキッパー

趙 萬石

拝啓

この度対馬にて開催されました対馬・釜山・グアム姉妹島親善ヨットレースへの参加につきましては、貴支部の皆様はじめ、関係各位のご協力とご支援のおかげをもちまして多大の収穫を得て無事終えることができました。レース期間中に参加艇ク

ルーに対して与えられたご親切とご好意に対し、心よりお礼申し上げます。

今回のレースを通じて、韓・日及びグアムのヨットマンとの友好増進が大いに深められ喜びに耐えません。来年は、『第10回アリランレース』が控えておりますので、今まで以上の皆様に参加下さいまして、成功裏に成し遂げるにより一層のヨットマンの交流が図られることを願っております。

末松支部長をはじめ、N.O.R.C.玄海支部の会員各位の変わらぬご健勝ご多幸をお祈り致します。



写真上：“シーワイフ”チーム、写真下：“オリンピア”チーム(いずれも韓国)

対馬・釜山・グアム姉妹島親善ヨットレース成績表 (1990年5月3日～4日, 5日)

第1レース 1990年5月3日～4日, 18:40 スタート, 風速10%, 距離50M
(浅海湾スタート～対馬南反時計回り～厳原港口フィニッシュ)
第2レース 1990年5月5日, 11:00 スタート, 風速5%, 距離20M
(厳原港ロスタート～マーク反時計回り～厳原港口フィニッシュ)

艇名	艇種	第1レース 順位	第2レース 順位	総合順位
飛梅	TAK 49	①	5	①
バンガード(玄海・グアム混成)	VDO 36	②	②	②
キャピティーン	VDF 30	5	9	③
オリンピア(釜山)	DOU 33	4	12	④
ゴサマー アルバトロス	Nissan 30	7	11	⑤
クリップ	TAK 31	6	13	⑥
G&B	Jackpot 29	10	7	7
リベルテ ニキスプレス	F a r r 41	12	③	8
カラコルム	ESP 30	8	14	9
ピクニック	FS 32	13	8	10
ミラーージュ	Jeanneau 41	15	6	11
きたたき(対馬)	DOU 34	14	10	12
麻理絵	VDO 41	16	4	13
ステラ	TAK 32	DNF	①	—
シーワイフ(釜山)	DOU 33	③	DNF	—
レディK	K I H 30	11	DNF	—
ブルーコスモ	Y A 26	9	DNF	—
玄鳥(玄海・グアム混成)	F C 12	DNS	DNC	—

※総合順位は修正時間合計で決定

第113回理事会議事録

社団法人 日本外洋帆走協会

1. 日時

平成2年5月12日(土)13:00~16:00

2. 場所

東京都港区虎ノ門1-15-16
船舶振興ビル10F会議室

3. 出席者

理事 30名中 出席 27名 委任状12名

<出席>

大儀見薫, 清水栄太郎, 並木茂士, 朝河清, 今岡又彦, 児玉萬平, 古川保夫, 宮坂敬三, 安岡信一, 川端治夫, 秋山福夫, 松木哲, 山田東吾, 岩田行史, 東江正喜

理事以外出席

横山晃 (監事), 渡辺修治 (監事)

近藤禎之 (会報小委)

<委任状>

石原慎太郎, 秋田博正, 久保和男, 石井正行, 林賢之輔, 山崎達光, 峰田昌矩, 長谷川富延, 都築勝利, 三井祥功, 平岡英信, 末松明

4. 議題

(1) JYRUの新設に関する問題

(2) その他

5. 議事

13:00大儀見副会長の司会により開会, 事務局小山職員より, 出席理事は27名である旨の報告があり, 本理事会会の成立を確認, 大儀見副会長が議長となり, 議事録署名人に古川, 児玉両理事を指名し, 議事に入った。

議題(1) JYRUの新設に関する問題

討議にさきだち, 清水専務理事より3月14日, 4月11日のNORCとJYAの協議会の要旨説明があった。JYAは次のような主旨の発言があった。

- 1) 従来の立場より思い切って踏み込んだ形でJYA, NORCともに現組織を解体させることを前提に全く新しいヨットのナショナルオーソリティとしての組織を共同して造る。
- 2) 新しい組織は文部省と運輸省の共同主管の型をとることが望ましい。
- 3) 文部省は過去にこの形をとることについては同意しており, 現状でも原則的に問題はない。但し, 国体などのからみもあるので県連の組織は残さざるを得ないのではないか。(体協とのからみではJOCが分離したので国体だけが残った)。
- 4) 本年11月末までを目標にして新組織を発足させる。NORCとしては
 - 1) 従来の方針はできるだけ早い時期に新しいJYRU

をNORCとJYAの両組織が主体となって構成するIYRUに対する正式なナショナルオーソリティとして早急に発足させる。JYAは文部省の体育行政にかかわる部分とか, NORCは運輸省の船舶, 海上安全等にかかわる部分などでIYRUの管轄になじまないものもあるので, 共通の部分をベースに限定した新組織を新たに造り既存の組織は残すというものである。

2) 両組織の歴史, 構成などの違いもあるので全面的な一本化は現実には難しいのではないかなどの指摘が行われ, できるだけ早い時期に一体を目指すことを前提に

- ① 一体化をする上での各論での障害がなんであるかを特定する。
- ② 一体化を推進するためそれぞれ組織として対応する(小委員会を設置する, 文部省, 運輸省の意向を打診するなど)。
- ③ その上で本年11月を目標に作業を進める体制を造ることなどが合意された。

また, 運輸省の意向についてはヨット界自身の合意が前提であるなどの報告がなされた。

各理事からは

- ・ 両組織の一本化は前向きに進めるべきだが, NORCとJYAのそれぞれの成立の経緯と組織のあり方からいって完全な一本化は難しいのではないか。
- ・ 外国のナショナルオーソリティはどうなっているのか, 「その国の全てのヨットを代表する」という基本条件から見れば, 現状ではJYAはナショナルオーソリティとしては失格ではないか。
- ・ JYAの事業は国体とオリンピックが二本柱であり, また「財団」としての性格上, これをJYRUに一本化するのは難しいのではないか。

等の意見が出され, 結論としては

- 1) ヨットレースにかかわる共通部分を既存のそれぞれの組織から外して, これを一本化(統合)することが現実的である。
- 2) その上で, この第一ステップが成果をあげ実績を積み重ねて行く中で次のステップに進むべきである。
- 3) JYRUはしたがって「レーシングユニオン」としての性格を中心にIYRR, 審判, 選手の登録(付則の1のカテゴリー3), クラスポリシーの問題などを中心にまとめるという方針とすべきである。
- 4) JYRUに社会的(公的)機関としての拘束力を持たせるには会社法人ということも検討してはどうか。JYAとNORCが主要株主となり, ヨットレース

にかかわる他の組織も株主として参加する道を残せば、同会社の定款に基づく運営が法的にも裏付けされる等多くの利点があるのではないかと指摘された。

5) また、大儀見議長より、JYRUの設立にむけてNORC内にJYRU特別委員会の設置が提案され、現在のJYAとの協議会への出席メンバー大儀見、清水、石井、平松各氏を中心に若干名を加えることで構成することが了承された。

議題(2)その他①新入会員承認の件

大儀見議長より、89年11月1日より90年4月30日までの新入会員が、特別会員33名正会員173名準会員20名、合計226名あった旨の説明があり(総会員数4054名)、入会は承認された。

②90年ケンウッドカップについて

大儀見議長より90年ケンウッドカップナショナルチーム編成についての経過説明があった。日本チームはブルー、グリーン、イエローの3チームで外国チームからの参加は12、3艇が予定されている。

③94年環太平洋レースについて

大儀見議長より、関西国際空港の開港を記念した94年環太平洋レースについて説明があった。スタートはロスアンゼルス、ブリスベーン、上海、釜山、ナホトカの5地点でフィニッシュは大阪である。大阪府よりレースの主催依頼があり、理事会として承認された。また今後実行委員会が従来この種のレースの場合と

同様設置されることになることを説明、了承された。

④沖縄レース中止の報告

宮坂帆走委員長より90年沖縄レース中止の経緯について大要次のような報告があった。

今回はエントリー4艇のうち3艇が出走を中止し、“NACHI”1艇のみが沖縄入りした。レースは不成立となった。関係41団体には報告済みである。2年後は沖縄復帰20周年にあたり沖縄県、NORC沖縄支部としては存続に強い熱意を持っている。是非ともレースは存続してゆきたい。

また、この他に大儀見議長よりアメリカズカップの現況報告があり、ニッポンチャレンジシグネートとの間に相互の協力関係を明確にするため覚書を作成する作業が集められていること、及び当協会のアメリカズカップ担当としての国際委員長の位置づけを明確にして対応して行くことが必要であるとの説明があり、了承された。またIYRU関連の動きについての報告、今岡理事より船舶職員法の規則緩和に伴う大型艇の免許、見張員等の問題についての報告があった。以上で議事を終了し、16:00第113回理事会を終了した。

上記議事録に誤りのないことを証明し記名押印する

平成2年5月12日 議長 大儀見 薫[㊟]

署名人 古川 保 夫[㊟]

署名人 児 玉 萬 平[㊟]

5月号記事内容の変更

安全委員会

先月号で、ORC特別記定の変更点の解説をしましたが、その後ORCのチーフメジャーより訂正の通達がありました。

62. 1 LOA28ft以上の艇のライフラインの最小直径の5mmを4mmに訂正。

今後ライフラインを変更される艇は1×19の4mm以上の径のものをご使用ください。また既に安全検査員から

のアドバイスで1×19の5mmに変更された艇もあるかと思いますが、今回の訂正の通達が突然のもので、やむを得なかった事情を良くご理解いただきたいと思います。また、無用の混乱を避けるため、このライフラインの変更に対するルールの適用は本年10月以降とします。鳥羽レースは従来通りのライフライン(7×7、4mm径のものが多いため)で可とします。

ジャパンカップオフショアシリーズ1990委員会からのお知らせ

実行委員長 並木茂士

本年度ジャパンカップにおける広告表示については、実行委員会において検討を加えてきましたが、諸ケースを勘案した結果、従来どおりのカテゴリ-Aとします。

また、スキッパー・クルーの参加資格についても、実行委員会にて検討した結果、参加選手について制限を設けない、「オープン」と決定しました。

●公式プログラムについて

毎年発行していますジャパンカップ公式プログラムは、オフショア特別号として発行します。これにより、

日本で行われる最高峰のヨットレースとしての「ジャパンカップ」のプログラムが、NORC会員のすみずみまで行き届くこととなります。ところが、毎年のごとく各艇の紹介記事、プロフィールが締切を過ぎても集まらず、編集担当者を苦しめています。今年は編集スケジュールに遅れる艇については紹介記事がないまま、プログラムを作成する予定です。従って、参加予定の艇は早めに、各艇のプロフィール、カラー写真を提出できるように準備をお願いします。具体的な日時、方法については次号で発表します。

●参加艇には事前登録が必要です。

参加艇数の確認およびプログラム参加艇紹介などの為、次の期日までに事前登録を行って下さい

締切日時：1990年7月20日(金) 18:30

事前登録料：¥10,000円

登録方法：所定の事前登録用紙に必要事項を記入の上、プログラムに掲載する艇、オーナーのカラー写真、プロフィール等を添えて提出して下さい。事前登録順に良い泊地に決定します。

登録・問い合わせ：〒105 東京都港区虎ノ門1-15-16
(船舶振興ビル) 社団法人日本外洋
帆走協会 (N. O. R. C) Tel03-5
04-1911 FAX 03-504-1914

●レース運営スタッフ募集中！

シリーズ期間を通してレース運営お手伝いできる方は本部まで御一報下さい。交通費、宿泊費、食費、オフィシャルスタッフウェアを支給。プログラム、実施要項に氏名を掲載します。

「第50回海の記念日」・「海の旬間」について

運輸省では、本年も7月20日（「海の記念日」）から同月31日までの間、次の実施要領に基づき「海の記念日」及び「海の旬間」を実施することになりましたので、お知らせいたします。

「第50回海の記念日」・「海の旬間」実施要領 平成2年3月28日 運輸省

我が国は、四面を海に囲まれ、古来、産業、生活、文化等の各分野に亘って海と深くかかわっており、最近においては、海洋レジャー、海洋環境保全等海洋に対する関心と期待が高まっている。このような海との深いかわりを再認識するとともに、我が国の将来の発展にとって、海の積極的かつ多面的な利用と開発を進めること、海洋環境の保全、海上安全の確保を図ること等が必要不可欠であることについて、国民各層の関心と理解を深めるため、7月20日が「海の記念日」として制定されている。

この「海の記念日」は、本年第50回の記念すべき節目を迎えるので、下記により「第50回海の記念日」及び「海の旬間」（7月20日～7月31日：以下、「旬間」と言う。）の期間を中心に、地方公共団体や海事関係諸団体等の協力を得て、中央及び地方に亘り各種行事を展開し、海洋・海事思想の一層の普及を図り、もって海洋国家日本の発展に資する。

このため、中央においては「海の旬間推進委員会」を設置し、総合的な実施計画を作成するとともに、地方においては各地方運輸局を中心とする「海の旬間実行委員会」を設置し、各地域毎の実施計画を作成して、その実施に当たるものとする。

記

(1) 記念式典

全国において「第50回海の記念日」記念式典を開催し、特に東京においては、「第50回海の記念日」・「第5回海の祭典」記念式典及び祝賀会を実施する。

(2) 海の祭典

主要港湾都市持ち回りで昭和61年から開催しており、本年開催都市は東京都とし、(1)の記念式典及び祝賀会のほか、マリンカーニバル、ボート・サウンド・フェスティバル、光のパレード、ボートルネッサンス

21・フォーラム等を実施する。

- (3) 海の記念日ロゴ・シンボルマークの作成、使用
海をイメージして作成したロゴ・シンボルマークを、「海の記念日」「旬間」に係る行事の表示・掲示、広告・印刷物等に使用する。
- (4) 海の歌の募集・作成
第50回海の記念日を記念し、国民的愛唱歌を募集・作成し、各地イベント等を通して普及を図る。
- (5) 広告入り葉書の発行
「海の記念日」の広告入り葉書を地方運輸局所在地等において発行する。
- (6) 第50回海の記念日地方特別イベント
地方運輸局等の地方支分部局が中心となり、地方公共団体、海事団体等と協力し、ホエールウォッチングアドベンチャー、マリンスポーツ体験の集い等、市民参加型のイベントを開催する。
- (7) 海や水辺をきれいにするキャンペーン
海をきれいにするための一般協力者の表彰制度を創設するとともに、港内、海浜等の清掃、マリナー周辺の美化運動及び広報活動を行う。
- (8) 「外航海運の現況」等の発表
「外航海運の現況」等を発表する。
- (9) 海上・街頭におけるデモンストレーション等
海上パレード、街頭パレード等のデモンストレーションを実施する。
- (10) 海洋性レクリエーション関係イベント
ヨットやモーターボートの試乗会、ボート天国、モーターボート・ラリー、ヨットレース等のマリンスポーツ競技会及び安全講習会を実施し、海洋性レクリエーションの振興を図る。
- (11) 客船旅行関係イベント
外航客船による洋上セミナー、海外体験航海等を実施する。
- (12) 「'90ミス マル・レイナ（海のプリンセス）」による広報活動
キャンペーンガールのテレビ、週刊誌、各種行事等への出演による広報活動を実施する。
- (13) 講演会等
海に関する講演会、展覧会、映画会、図画・写真コ

ンクール等を実施する。

- (14) 船舶及び研究施設等の一般公開，体験乗船
練習帆船，巡視船等の船舶及び研究施設等の一般公開，体験乗船を行う。
- (15) 海の相談室，海図展等
海の相談室，お天気フェア等の開設，海図等の展示，配布を行う。
- (16) 訪船指導，無料健康相談等
海洋汚染防止，海難防止のための訪船等による指導，船員等を対象とした無料健康相談等を行う。
- (17) 汽笛の一斉吹鳴
7月20日（「海の記念日」）正午を期して汽笛の一斉吹鳴を行う。
- (18) 周知活動
テレビ，ラジオ，雑誌等による広報，「海の記念日」及び「旬間」をモチーフにしたポスター，字幕等の作成・掲示，広報資料，各種配布物の作成・配布を行う。
- (19) その他
地域の特殊性を考慮して「第50回海の記念日」及び「旬間」の趣旨に沿った各種行事を実施する。

海の旬間推進委員会構成員

運輸省
海上保安庁
気象庁
財沿岸レジャー安全センター
海上災害防止センター
船員災害防止協会
財全日本海員福祉センター（新規加入）
財日本海員救済会
財日本海事科学振興財団
財日本海事広報協会
日本海事財団
財日本海難防止協会
財日本海洋少年団連盟
財日本外洋帆走協会
財日本気象協会（新規加入）
財日本港湾協会
日本小型船舶検査機構
財日本舟艇工業会
財日本水路協会
財日本船主協会
財日本船舶振興会
財日本造船工業会
日本内航海運組合連合会
財日本マリナー・ビーチ協会
財日本モーターボート協会
財日本旅客船協会
財ブルーシー・アンド・グリーンランド財団

1990三洋証券・ニッポンカップ国内予選代表選抜大会 プレ・ニッポンカップ イン 浜名湖 実施要綱のお知らせ

主催及び主管：1990ニッポンカップ国際ヨットマッチレース国内予選代表選抜大会実行委員会

共催：社団法人 日本外洋帆走協会（NORC）

財団法人 日本ヨット協会（JYA）

葉山マリナーヨットクラブ（HMYC）

競技運営：ヤマハ発動機(株)東京マリン企画室

開催場所：静岡県湖西市 ヤマハマリナー浜名湖

適用規則：1989—92国際ヨット競技規則

帆走指示書

参加申し込み先：〒104 東京都中央区築地1-4-8

ホワイトビル602

ニッポンカップ国際ヨットマッチレース事務局 FAX03-5565-4740

申し込み受付期間：1990年8月20日(月)から25日(土)迄

申し込み方法：次の事項を記載してFAXにて送ること
チーム名/活動水域/代表者氏名/
住所/Tel&FAX（自宅及び勤務先）

申し込み条件：先着40チーム迄受付ける。受理された

チームには，後日，正式エントリーフォームを実行委員会より送付する。各チームより返送されたエントリーフォーム記載内容が適性と判断されたチームに，正式な参加資格を与える。

参加料：1チーム ￥30,000

開催日程：9月14日，15日，16日（予備日）

競技艇及び乗員：YAMAHA-23II，1チーム4名（スキッパー1名とクルー3名。但しエントリーは6名迄可）

競技方法：

1日目/抽選により予め組み合わせされたブロック別フリーレースを行い各ブロックの上位3チーム，計12チームを選抜する。

2日目/12チームによるトーナメント方式マッチレース（組合せは抽選による）を実施し，6チームを選抜する。

詳細については参加申し込み先へ郵送又はFAXにてお問い合わせ下さい。

トーヨコカップ ジャパン—グアムヨットレース'90のお知らせ

主催：(社)日本外洋帆走協会 実行委員長 朝河 清

19:00—21:00 知事公舎

ホストクラブ：油壺ベイヨットクラブ
マリアナスヨットクラブ

詳細問合せはNORC相馬まで

メインスポンサーにトーヨコグループが決定しました。

コース：油壺—グアム 1330マイル

スタート：1990年12月28日(金)12:00

表彰式・パーティ：1991年1月6日

今年の夏は、SURF'90 「三浦フィッシャーマンズワーフ」でダイナミックに!

三浦市地域振興本部 柳井 晋

「人と海との共生」をテーマに、SURF'90 (Sgamiwan Urban Resort Festival in 1990、「相模湾海の総合イベント」)が4月29日の藤沢会場オープニングを皮切りに開幕しました。

このサーフ'90は相模湾の海と沿岸地域の持つ特性と優れた環境を十分に生かし、21世紀に向けて人と海とのかかわり方や可能性、相模湾にふさわしいライフスタイルを様々なイベントを通して提案し、将来に向けての「しくみ」をつくりだすきっかけです。

サーフ'90は、三浦会場、藤沢会場、平塚会場、小田原会場の四会場が主要会場です。

三浦会場のテーマは「新しい海業」です。「海の資源、海の資源をいかに利用していくか」、ウォーターフロントの整備を中心とした海の多角的利用、海の総業産業、これを「海業」と呼び、提案をしていきます。

そこで三浦会場は、サーフ'90の中心イベントとして7月1日より9月2日までの64日間にわたり、「三浦フィッシャーマンズワーフ」が三崎新港特設会場に設けられ展開します。

そのフィッシャーマンズをご紹介します。会場イメージ図をご覧ください。

先ずゲートをくぐって右に「三浦ストリート」。ここではマリングッズ、地元の特産品、まぐろ料理、地元漁師のおかみさんによる魚料理などがズラリと店をならべます。

その隣は「三浦海業館」で、海の歴史、漁業の様子、漁法やマリレジャーなどが紹介され、市民ギャラリーでは帆船、ヨットの写真展をはじめ週ごとの展示を主体とした催しが行われます。

又、会場中央には「魚のふれあい

水族館」(タッチプール)があり、気軽に魚たちとヒレ握手?が出来ます。

その先方右手には「イベントステージ」があり、様々なイベントが毎日行なわれ、ステージが楽しめます。

鳥羽パールレース及び裕次郎メモリアルヨットレースの表彰も予定されています。

そして、会場の先端には本格的ログハウスと海に迫り出したボートデッキがあり、ビールとシーフード料理がリラックスした気分で味わえ、ヨットレースのパーティにも利用が出来ます。

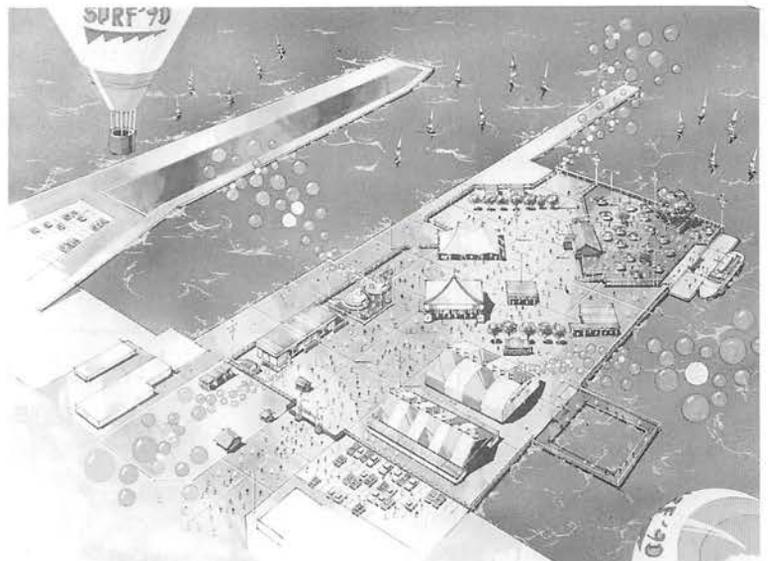
また、海ではイケスを利用した「海上釣堀」があり手軽に釣りの醍醐味を味わってください。

なお、ここでは新たに「海の交通システム」として、藤沢会場を50分で結ぶ「サーフ・マリンライナー」城ヶ島への連絡船「サーフ・マリンシャトル」、そして横浜港や葉山マリーナ等へは豪華クルーザー「サーフ・マリンシャトル」が就航します。

最後にヨット関係のイベントもNORCの協力を得て次のとおり盛り沢山です。ご協力に感謝いたします。

- 帆船・ヨット写真展 (7/9~15)
- 講演 堀江謙一「海とヨットを語る」(8/4)
- マーメイド号の展示(8/1~31)
- ラジコン天国ヨット体験コーナー(8/18~19)
- 鳥羽パールレース(7/27~29)
- ファミリークルージング(8/12, 親と子城ヶ島一周体験乗船)
- 海のまつり(7/28~29)
- ヨットのイルミネーションパレード(8/15)と係留(7/1~8/31)
- メリットカップワールドヨットマッチレース(8/22~25)
- 裕次郎メモリアルヨットレース(8/26)
- ジャパンカップオフショアシリーズ'90(10/5~14)

その他、相模湾の海を利用するイベントも数多くあります。ぜひ、今年の夏はサーフ'90三浦会場でお楽しみください。また、マリレジャーと海、漁業に対するご提案等がございましたら、お寄せください。お待ちしております。



フリート紹介——関東支部

熱海伊東フリートの巻

1990年5月よりNORC関東支部に14番目の新フリート、熱海伊東フリートが発足しました。

熱海、伊東はクルーザーヨットのメッカ、相模湾、三浦半島の対岸に面し、従来よりクルーザーヨットの寄港地に利用され、またレースの目的地として役立ってきた地域です。

でも熱海はジャパンカップの開催地として6年間、NORCのメンバーには親しまれてきた街です。今までNORCのフリートのなかったことが信じられない方もいるかも知れませんが、ここにきてようやくその気運が盛りあがり新フリート誕生となりました。まだ所属艇は少ないのですが、近年のウォーターフロント開発で、大規模な伊東ヨットハーバー計画や、熱海コースタルリゾート計画が平陽の目を見てきた様子で、将来が楽しみな当フリートです。

今までは地元のヨットマンがローカル的にユニークなヨットレースを企画、かなりの好評を頂いています。その一つは、「熱海ケッチミーティング、クルージング大集合」です。最大60艇の参加艇があり、レースのあとは港の中にイルミネーションパレードで華をそえたり、楽しい企画で第7回まで続いたのですが、近年は御無沙汰しております。(主催者

某が、ケッチから身の程を知らずにIORに転向中、そのうち熱もさめ我が身の限界を知り、また2本マストに戻るでしょう)。また同じ熱海で7月開催のアジロミーティング。これは南熱海網代より初島を廻る楽しいファミリーレースです。

伊東では、日本ヨットの発生の地、また最初に国産ヨットとしてスクーターを帆走させた三浦安針(ウィリアム・アダムス、徳川幕府帆走師南)をしのぶ安針祭のハイライト、安針祭ヨットレースが8月の第1日曜に毎年行われます。

つぎにメンバーを紹介しましょう。

フラッグシップ“ラッキーレディ”(高井46)。最近のNORC所属艇で一番の出しゃばり。その艇跡は太平洋を縦横に走り、3万マイルというロングレーサーとしての実績はあるが、何故か成績は今いちです。今年もグアムレース、それに続いてもう一度赤道を越えてオーストラリア、メルボルンへ向い、来年のダブルハンド、ヤマハカップへ挑戦予定です。

“プロバガンダ”(ファー40)。今年からニュージーランドより移籍、1988ワントンカップ、'87アドミラルズカップの覇者です。オーナー石渡一夫氏は今年のケンウッドカップ

をねらいます。只今相模湾でニュージーランドクルーと猛特訓中。

“サウスウィンド”(ヤマハ30)。熱海マリーナオーナーの小林旭氏所有。熱海マリーナは、南熱海の小山にあり現在モーターボートの保管が主となっていますが、拡張計画があり、将来係留600艇を越えるハーバーとなる可能性を秘めています。

“クリスターラ”(バルテック35)。今年4月進水したIMS艇。オーナーの堀内氏はガラス工芸家でニッポンカップのクリスタルトロフィーの作家としても活躍中。

“英・ハナブサ”(ベネトウ26)。オーナー中田医師。熱海ヨット協会長艇で我々の良き理解者です。

“レディアヤ”(ベネトウ430)。小峰澄男氏。何故か香港籍。5月6日四国室戸三崎沖で大破、何とか徳島ケンチョピアに辿りつき次の艇を物色中。コリナイ面々です。

他に伊東マリーナから数艇、只今NORCに登録中といます。まだまだ小さなフリートですが、将来は大フリートになる様、新入艇、会員募集中です。

11月初旬には発足記念レース、パーティーを行なう予定です。乞御期待、熱海、伊東の夜!

フリートキャプテン 稲葉 文則



左より“ラッキーレディ”稲葉オーナー、“プロバガンダ”石渡オーナー、今年のケンウッド・カップで同艇のヘルムスマンを務めるリチャード・ドットソン(NZ)



長くジャパンカップの舞台となった熱海港。手前は“レディアヤ”

『第10回沖繩—東京レース』の報告

1972年(昭和47年)に沖繩の復帰を記念して第1回目が行われた『沖繩—東京レース』が今年第10回目を迎えたのであるが、エントリー4艇の内3艇がエントリーを取消し、実質的に1艇のみではレースが成立しないとの判断をせざるを得なくなり取り止めとなった。誠に残念であった。

4月10日の連絡会では沖繩支部から“トレジャー(デヘラー36)”高良英明オーナーと“エクセルザーII(ファースト375)”金城稔オーナーの2艇がIMSクラスで参加を表明し、IORクラスには東海支部の“ナチX世(横山41)”二村昭治オーナー及び“風見鶏(高井43)”榊正寛オーナーの2艇がエントリーを行い、参加艇は少ないものの第10回目のレースは成立するものと確信していた。しかし、その後“ナチX世”以外の艇から出走を取り止めるとの連絡が入り、レースがスタート出来るのかどうか危ぶまれ始めた。

“ナチX世”は今回のレースに賭ける意気込みは高く、準備万端整え4月19日名古屋を出港した。1艇だけではレースが成立しないと云う認識はしてもらったものの、とにかく沖繩までは行くとの意志は堅かったのである。“ナチX世”グループは『沖繩レース』、『小笠原レース』の大ファンであり、オーシャンゴイングのレースをこよなく愛するグループである。今回、“ナチX世”が最後までレース成立をあきらめずに沖繩まで回航したことは、外洋レースが衰退している現今の風潮に対する大きな問題提起として受けとめたい。

参考迄に過去の『沖繩レース』、『小笠原レース』の参加艇数を調べてみると以下の通りである。

沖繩レース

第1回(1972)	12艇
第2回(1974)	17艇

第3回(1976)	13艇
第4回(1978)	27艇
第5回(1980)	21艇
第6回(1982)	17艇
第7回(1984)	13艇
第8回(1986)	8艇
第9回(1988)	4艇

小笠原レース

第1回(1979)	18艇
第2回(1981)	12艇
第3回(1983)	9艇
第4回(1985)	9艇
第5回(1987)	9艇
特別(1988)	10艇
第6回(1989)	5艇

何故、外洋のレースが人気がなく、参加艇が少ないのか真剣に考えてみる必要がある。原因には色々考えられる。艇の問題、休暇の問題、時期の問題、魅力の問題等々……。確かにレースの多様化、遊びの多様化は時代の流れかも知れない。しかし、外洋レースを通して海にロマンを求める我々としては、ただ嘆いてばかりいるわけにはいかない。

今回のレース委員長をお願いした並木理事、坂西レース委員と私の3人は地元関係団体への挨拶もあり予定通り沖繩へ行った。4月27日“ナチX世”は宜野湾マリーナに入っていた。4月28日15:00より予定の艇長会議が反省会、今後の立て直しの検討会となった。

本部から、レース委員長の並木氏、レース委員の坂西氏と私。支部から、支部長の城間氏、理事の東江氏、ルール委員の保井氏、計測の高江須氏、広報の津村氏、事務局の識名氏、桃原氏、“エクセルザーII”の儀間氏、“ナチX世”の二村氏、近藤氏が参加した。本部の立場、支部の立場、参加者の立場、それぞれの立場で自由な意見を交換した。総じて前向きであり、次回へ向けての建設的な意見が多かった。次回は2年後であり、沖繩復帰20周年に当た

る。ぜひ成功させたい。

関係各署、団体、マスコミもぜひとも続行に協力したいとの申し出を受けている。大いに力づけられた。まとめてみると、

開催時期の問題

スタートを三崎にしてみたらどうか
スポンサーをとれないだろうか

告示、PRを早くする

カテゴリーの見直し

沖繩でシリーズレースを行ったらどうか

準備にはもっと時間をかける

他。

いずれも今後の検討を要するものばかりであるが、参加しやすい、楽しいレースにするために皆で智恵を出し合い、努力することを申し合わせた。

本部としては出された意見を謙虚に受けとめ、帆走委員会をはじめ各専門委員会とも計りながら次回の沖繩復帰20周年の特別レースを成功させたいと考えている。

新事務局員紹介

5月10日より、相馬雅利氏がNORC本部新事務局員として加わりました。



氏は昭和24年5月29日生まれの41才。出身は神奈川県。早大文学部卒業です。クルーザー歴はありませんが、ディンギー(主にレーザ)歴は20年のベテランです。「レーティング、無線についてはまったく知識がないので勉強中です。早く仕事に慣れて、会員の皆様のお役に立ちたいと思います。どうぞお手やわらかにお願いします」と抱負を語っています。皆様、どうぞよろしくお願いします。

第31回鳥羽パールレースへのお誘い

本部帆走委員会

本年度鳥羽パールレースは以下の要領で行います。ふ
るってご参加下さい。尚、鳥羽における泊地に関する詳
細につきましては関東及び東海支部での連絡会議で説明
致します。艇長もしくは代理人の方は必ず出席して下さい。

スタート日時：

Aコース 7月27日(金) 12:00

Bコース 7月27日(金) 12:20

タイムリミット：7月29日(日) 18:00

コース：

Aコース 鳥羽→神津島(反時計)→三崎港(180M)

Bコース 鳥羽→三崎港(150M)

参加資格

Aコース：

1) IORもしくはJORの有効なレーティングを所有し、ORC-III以上及びNORC-B以上の安全検査に合格しているクラスI~VIの艇。乗員については、レーティング証書記載の人数+2以内で、小型船舶安全検査以内とする。

2) IMSの有効なレーティング証書を所有している艇。安全に関しては1)のIOR/JORと同じ。

Bコース：

1) IORもしくはJORの有効なレーティングを所有し、ORC-III以上及びNORC-B以上の安全検査に合格しているクラスI~VIIの艇。乗員については、レーティング証書記載の人数+2以内で、小型船舶安全検査以内とする。

2) NORCクルーザーレーティングを所有し、小型船舶安全検査「沿海区域」以上の検査に合格し、加えて乗員分のハーネスおよびパラシュートフレア4本を搭載している艇。乗員については、小型船舶安全検査以内とする。

A, Bコース共通

NORCの登録艇または会友艇であり、艇長はNORCの会員であること。

乗員数は4名以上であること。また、乗組員の1/2以

上は会員であること。

参加料：出艇料 1艇 6,000円
(申込締切までに納入して下さい)
乗員参加料 会員1名 2,500円
非会員及び会費未納者 5,500円
15才未満 2,500円
(出艇申告時に納入して下さい)

参加申込：6月29日(金) 18:30までに所定の申込用紙に必要事項を記入し(東海支部へはハガキで)、出艇料を添えてNORC本部またはNORC東海支部事務局(052-971-5835)にお申し込み下さい。

出艇申告：7月26日(木)10:30~15:00(時間厳守)
於 望海楼

提出書類：出艇申告書(2部)、会員証のコピー、NORC安全検査証コピー

但し、クルーザーレーティングクラスはNORC安全検査証に代えて小型船舶安全検査証(沿海区域以上)コピーと特別安全備品積載申告書を提出すること。

艇長会議：7月26日(木)17:00~18:00
於 鳥羽国際ホテル

連絡会議：東京

7月13日(金) 18:30~

於 虎ノ門パストラル「桜の間」

東海

7月18日(水) 18:30~

於 東海会館 華寿殿

*必ずどちらかの連絡会に出席をお願いします。

募集：鳥羽レースフィニッシュ担当コミッティ要員

鳥羽レース期間中、レース本部をお手伝いいただける方を大募集します。交通費、食事、宿泊、記念Tシャツを支給します。150パイからのフィニッシュはまさに圧巻としか言い様がありません。詳細につきましては、NORC事務局相馬宛お問い合わせ下さい。(03-504-1911)

阿波踊りヨットレース 日程を一日繰り上げ

真夏のお祭りレースとして人気の『シャロンインターナショナルカップ 阿波踊りヨットレース』は、例年8月14日に行われていたが、今年は日程を一日繰り上げ8月13日に行うことになった。

第18回目を迎えるため、新機軸を打ち出すために一日早くしたもので、参加艇は小松島港の小松島海上保安部横に集結、8月12日の夕刻同港でトランベッターの日野皓正を招いて、前夜祭として『真夏の夜の

ジャズ』を行う予定。

レース終了後は例年通りケンチョピアで表彰式、パーティを行い、阿波踊りに繰り出す。詳しい問い合わせは下記まで。

徳島ヨットクラブ：徳島市万代町ヨット通り シーマンライク内

Tel 0886-25-3706



第2回 SPRING CUP IN 宝伝

平成2年4月8日(日)

参加艇数は昨年の51艇を上回り、クルーザー67艇、ディンギー50艇となり、遠来組は須磨YC、笠岡YC、四国は前回優勝のKCYC、地元ではNORC岡山、OSCとなりました。

前夜祭は、4月7日(土)定刻の午後7時には、210余名のセーラーが集い、早くもオフセンス・ディフェンスとかげ引き(陸上レガッタ)が始まり、賑やかに予定時間を大幅に延長し、午後11時を過ぎても終わらない盛大さでした。

8日午前2時に第1波の低気圧の四国通過が始まり、高松では風速35~40KtとKCYC事務局からの第1報があったが、宝伝沖の計測では風速10Ktでした。

午前4時に第2波の低気圧が山陰通過、宝伝沖の最大風速が36Ktとなり、朝方の回航艇が心配で無線及び電話等で、各クラブ、各ハーバーの責任者と連絡、協議、情報収集に務めました。

出艇受付が始まっても風は弱まらず大会役員は協議を重ね、とりあえず午前7時30分に各艇長にスタートの延期を通達し、本部艇(Y-33)

をスタート位置に出し15分置きに風速、気圧を陸上本部に報告させる一方で、気象庁には30分置きにコンタクトしたおかげで、第3波の低気圧通過を確認できました。

その時、高松のKCYC所属の“セーラーズII”艇長渡辺氏、“波子町”艇長富井氏より宝伝へ向け回航中との無線連絡があり、本部役員一同さすが海の“強者”と感嘆しきり!

午前8時、風も14~18Ktに弱まって来たので、8時30分に艇長会議を開き各艇長の英断で、出艇届、出艇取消しなどして頂き、定刻1時間遅れの10時スタートと決定致しました。

各艇1ポイントリーフ、No.2ゼノアで強風、荒波をついて豪快なスタートを切って行きました(出艇数35艇)。コミッティは警戒艇としてパワーボート11隻を配し、無線で連絡を取りながらレース艇の伴走を務め安全を図りました。トップグループは強風の中、早々とスピランに移り後続艇もこれに習い荒波の海上にスピンの花が咲きました。

大会本部では午前10時30分ディンギーレースについて協議の結果、中止を決定し各艇長に伝え参加賞をお

渡し、クルーザーレースを共に観戦しながら次回ヨットレースでの再会を誓いあいました。

午後1時20分頃に早くもトップ集団は第3レグを、2ポイントリーフ、スピランで豪快にNo.3マークに向けて快走、その頃は平均風速16~20Ktとやや強めになり荒波を乗り切って、“PENELOPEII”植松艇長(須磨YC)が、レースコース20Mを走破し午後1時59分54秒ファーストホームを見事に決めました。

続々とフィニッシュしたセーラーの顔に、潮の結晶を真っ白に着け、疲れた様子もなく荒海を乗り切った満足感が満ちあふれ、表彰式の司会の声も、参加者の話し声にともすれば消されがちな興奮の中で盛大に表彰式を行いました。

ディンギーレースは中止したもののクルーザーレースが成立出来ましたことは一重に、後援、協賛又荒海の中警戒艇(岡山マリンハムクラブ)を勤めて頂いた皆様のご協力と、ご指導のおかげと、クラブ員一同感謝致しております。

宝伝YC会長

第2回スプリングカップ イン 宝伝 成績表

No.	艇名	艇種	所属クラブ名	艇長名	TCF	所要時間	修正時間	順位	総合順位
1	マーレレード	DP-30	須磨 Y. C	岡田 真一	0.7236	5°02'38"	3°38'59"	1 3	1 3
2	IZUMO	Y-30S II	須磨 Y. C	伊藤 耕磁	0.7322	4°03'29"	2°58'16"	2	2
3	PENELOPE II	YR-30	須磨 Y. C	由松 量	0.7357	3°59'54"	2°56'29"	1	1
4	海波風Ⅳ	Y-25ML		石原 文義	0.6843	DNF			
5	アルカード	Y-21C	HSC	平本 育雄	0.6550	DNF			
6	シーリーズ II	Y-30S	倉敷 Y. C	松三 洋夫	0.7315	DNF			
7	サンシャイン II	バイオア79	NORC岡山	松木 正雄	0.7237	4°53'30"	3°32'24"	1 1	1 1
8	洋々	キャナル30	HSC	樋口 博一	0.6910	DNF			
9	甲滝Ⅶ	横山30C	須磨 Y. C	吉田 正人	0.7315	4°12'49"	3°04'56"	4	3
10	SALLY	Y-26S	SMOヨットS.C	草加 尚英	0.6885	DNC			
11	エミコ	Y-26S	KYC	古家 弘	0.6885	DNC			
12	備前	高井26	OSC	徳田 修吾	0.6956	5°00'16"	3°28'51"	1 2	1 0
13	MMJ	キャナル23		島山 敏尚	0.6550	DNF			
14	いおらす	ネルソマレック31	玉島 YC	守屋 尚	0.7448	4°08'43"	3°05'14"	3	4
15	ノービス	Y-21R&C	小豆島 YC	三木 信之	0.6600	DNC			
16	ミルキウエイ	ニコルソ30	倉敷 YC	藤原 昌彦	0.7278	4°41'32"	3°24'54"	1 0	8
17	B.B. SHANTY	Y-30S II	マリナベラガス	横山 忠則	0.7322	DNC			
18	T&M チャージャー	Y-23 II	OSC	大森 透	0.6750	DNF			
19	ウエストウェル	高井30F	玉島 YC	西井 義明	0.7300	4°27'38"	3°15'22"	6	6
20	HOLYPHIN	ベネツウ285	牛窓	中務 裕富	0.7220	DNF			
21	HOUND DOG	スイング28	倉敷 YC	犬藤 雅久	0.7200	DNC			
22	あらヨット	Y-23 II	KCYC	河野 芳雄	0.6833	DNC			
23	富洋 II	インベリアル23	牛窓 YC	加原 富夫	0.6471	DNC			
24	トモエ	Y-25ML	KCYC	小林 元	0.6843	DNC			
25	ティファニー	木原30R&C	マリナベラガス	森西 康裕	0.7270	4°28'58"	3°15'32"	7	7
26	トゥーリア	Y-26S	ポートオブ	竹原 良信	0.6885	DNF			
27	ベガ8	Y-30S	OSC	小川 知広	0.7315	DNF			
28	ミヤス	Y-21R&C	大的場 YC	松本 俊司	0.6600	DNC			
29	マリン89	Y-21R&C	大的場 YC	舞木 勉	0.6600	DNC			
30	フレンドシップ III	J-24	ポートオブ 岡山	渡辺 秀基	0.7200	DNF			
31	WAVE	Y-26C	HYC	平賀 隆	0.6855	DNF			
32	ガン III世	Y-21R&C	OSC	岡田 健	0.6600	DNF			
33		Y-21S	屋島 YC	高畑 英司	0.6588	DNC			
34	トウメイ	高井30	玉島 YC	岡本 健一	0.7322	DNC			
35	頼夢	Y-25ML	香川 YC	山奥 優美	0.6843	DSQ			
36	POLARIS IV	J-24	HYC	松本 清	0.7200	DNC			
37	舞宇泳	Y-21R&C	HYC	山崎 新二郎	0.6600	DNF			
38	巡洋	Y-24	OSC	納所 実	0.7200	DNC			
39	セブンスター	Y-21R&C	OSC	篠原 新二	0.6600	DNC			
40	ホライズン	Y-26S	OSC	原 俊哉	0.6885	DNC			
41	セントポーリア	Y-26S	OSC	笹岡 茂之	0.6885	DNF			
42	SARA	Y-24	下電マリナ	片山 繁樹	0.6730	DNC			
43	ミスターチャン II	Y-30CR	ポートオブ 岡山	高倉 征博	0.7300	DNF			
44	ムーブ	J-24	KCYC	斉藤 隆	0.7200	DNC			
45	モラモラ	横山30	KCYC	国崇 達旦	0.7322	DNC			
46	TERU TERU	J-24	KCYC	浜野 照也	0.7200	DNC			
47	波子町	バイオア710 II	KCYC	富井 政知	0.7498	DNF			
48	SEIKO	Y-30S	玉島 YC	青江 重治	0.7315	DNF			
49	セラーズ II	Y-34EX	KCYC	渡辺 成剛	0.7448	PMS			
50	神崎	Y-26C		岡崎 昌仁	0.6855	DNF			
51	ネクスト	Y-30S II	KCYC	松崎 晶光	0.7322	4°40'31"	3°25'23"	9	9
52	アルテミス	Y-25ML		中嶋 訓之	0.6843	DNS			
53	SK川西	Y-23 II	KCYC	川西 一輝	0.6833	DNC			
54	キンタム	Y-30S II	倉敷 YC	国安 鉄夫	0.7322	4°26'40"	3°15'15"	5	5
55	ジェロニモ	DP-30	岡山マリン	高橋 鉄夫	0.7236	DNC			
56	昂		ポートオブ 岡山	伊達 良		DNC			
57	LETS PARTY	キャナル25	大的場 YC	世重 勉	0.6520	DNF			
58	オフエリア	Y-23		武重 昭夫	0.6830	DNC			
59	中	J-24		吉田 泰延	0.7200	DNC			
60	フェニックス	Y-21R&C	OSC	村上 安司	0.6637	DNC			
61	レディカオル	テハラ-34	マリナ岡山	近藤 潤次	0.7448	DNC			
62	バインコーン II	VFD-30		岡 亨	0.7234	DNC			
63	フロンティア6	ジャニス41	マリナ岡山	中島 健博	0.7892	4°31'40"	3°34'23"	8	1 2
64	ファルコン	Y-21C	ポートオブ 岡山	高山 新司	0.6550	DNC			
65	あすなろ	Y-21C	YSA高松	上野 博	0.6550	DNC			
66	ミスターチャン I	Y-25ML	ポートオブ 岡山	福島 誠吾	0.6843	DNC			
67	リトルハツ	J-24	マリナベラガス	日下 正典	0.7200	DNC			

◎ 玄 海 支 部 だ よ り ◎

第2回第一級海上特殊無線技士講習会

平成2年5月1日から、従来の国際無線電話級は『第一級海上特殊無線技士』に改正されました。『甲』は第二級になり、戦前、戦中派には懐かしい乙、丙、丁等の漢字も消えてしまいちよっぴり淋しいです。しかし、この漢字はヤングには嫌われている様ですね。講習期間が長いという理由でなかなか受講生が集まらず、2月に一回お流れになり、その時『甲』に切り替えたら？というお話がでました。既に申し込んでいた数人に聞いてみたら、「甲では受講する気がしない、英語の講習が長くてもいい、チャンネル71だけではつまらない、他のチャンネルも是非使用したい、なにがなんでも国際ですよ」と言われ、又国際に戻し募集しなおしました。

第2回の講習会は、去る3月12日から29日迄開きました。一昨年昭和63年に第1回をやりましたが、オークランドー福岡ヨットレーススタート数ヶ月前だったこともあって45名も集まり、地方でこんなに集まったのは初めてだったそうです。たしか監査もついでにと、初日に本省から何人かいらっしゃってました。

今回は残念無念、前回の半分以下の受講生で苦勞しました。この国際

無線電話は、40名を対象とした費用が最低限になっていますので、担当者の胃袋はチクチク痛みっぱなしです。やはり、かなり余裕を持って募集すべきでした。

でも2回も担当すれば講習会の運営(?)等のノウハウもすっかりわかり、講師が、「チェックしてあげましょうか？」と心配される程かなりややこしい受講生の免許申請書の清書も楽しみのひとつになる程です。今回が2年目に当たりましたので、今後支部としては、2年おきに定期的に関講できる様にもっていき、そ

して、「国際無線電話級の講習なら福岡の玄海支部に連絡を」と、無線関係の業者にも印象づけていきたいと思ひます。

電監や本部の鈴木通信委員長のご協力で開局させて戴いたこの立派な海岸局です。そして玄海支部の大事な財産でもあり、船舶局が増えたらメンバー制にし、近い将来通信士常駐させる位にしなくてはならないと思ひます。福岡の免許保持者の皆さん！頭の体操を兼ねて、来年あたり団体で通信士の国家試験を受けにいきませんか？玄海支部 片倉静江



会場となった船員厚生会館で、熱心に講義を聴く受講生たち

安い航空券と

ホテル

ケンウッドカップ参加艇の方へ！

ハワイ 1人 **126,000** より

東京発ユナイテッド航空使用 Yクラス 他にC・Fクラスあり

但し日付により値段変更があります。詳しくはご一報下さい。

サザンクロスツーリスト(株)

(旧社名プラスワントラベル(株))

東京都新宿区西新宿7-10-17

☎ 03-227-3781

The latest development in comfort,
style and performance in a
high-tech leather
boat shoe.

The
TITANIUM
BOAT SHOE

¥16500



SHOE LACES

高性能と履きやすさを追求して生まれたハーケンのオールレザーボートシューズ「チタニウム」。US最高の品質を誇る柔かいなめし皮、「ハイドロベル」を使った「チタニウムシューズ」は今、ボートシューズのトレンドセッターになった。よく練えられて、シリコン加工され撥水性を高めたレザーで「チタニウム」は最高の防水性能を確

保している。「チタニウム」だけが使っているハイドロベルレザーは水の吸収を最小限に止め、又何度も繰り返し水にさらされたあとでも「チタニウム」はしなやかさを失わず、回復時間すら不要でいつ履いても常に手袋のようなやわらかさを保っています。特製のソール「ウェーブライダー」は土踏まずと爪先と、かかとを支えるラバー

と、濡れたデッキでも素晴らしいトラクション(グリップ)を生む柔らかめのラバーの2種類から作られる信頼性の高いトラクションの秘密は細かレザークットのサイドとチャンネルにあります。

H 2000

メンズはホワイト地+ブルー/ホワイト+グレイ
¥11800



レディースはホワイト地+レッド+ピンク/ホワイト地+グレイ
¥11800

HARKEN

ハーケンジャパン株式会社 〒662 西宮市西宮浜2-21-9 TEL0798(22)2520

BMW TOKYO CUP 関東選手権シリーズ1990

(第13回フリート対抗レース)

チーム優勝は油壺B (“カラス”
“Char Chan”
“RIPPLE III”)

写真/和田ヒロシ, 関東支部広報委員会



艇別一位でポイント・ゲッター賞を受賞した油壺Bチームの“カラス”



コンスタントに得点を稼いだ“RIPPLE III” (艇別3位)



最終の大島レースで修正一位となった“Char Chan” (艇別4位)

本年度で13回を迎えたフリート対抗レースは、BMW TOKYO CUP 関東外洋ヨット選手権として、5月12日より27日の日程で開催された。このレースは同一フリートに属する3艇をもって構成されるチーム対抗のレースであり、関東のレースボーイングにとっては秋のジャパンカップにひく、本格的なシリーズ・レースである。今年は7チーム、23艇の参加があり、特に新艇となった“海太郎V” (Farr44)、ワントンカップを制した“プロパガンダ”の参加が話題となった。

シリーズの初日、5月12日には、第一レースとしてインショアの三角レースが行われた。コンディションは天候曇り、3~4%ほどの軽風。コースはオリンピック+ソーセージである。下有利のスタートラインから一番飛び出していった“海太郎V”は全てのマークをトップで回航、修正でも1位で圧倒的な速さを見せつけた。修正2位“BOY”、3位“カラス”。レース途中、風5%位まで上がり安定し、またコースが長いこともあって典型的な大型艇有利の条件となり、5位までを大型艇が独占する結果となった。

続く第2レースは同12日17時30分スタートの初島レース (得点係数1.5倍)。風はそれほどなく、明け方中小型艇がよい風を受けてフィニッシュしてきたが、やはり修正1位は“海太郎V”。2位に“BOY”、3位にはハーフトンの“青波行”と続いた。

第3レースは翌週の5月19日。朝から30ノットを越える風が吹き、天候も悪い。潮の影響もあってか、スタート時刻あたりから波もかなり高くなってきた。第1、2レースと

トップを走っていた“海太郎 V”だったが、スタート直後、突然のデスマスト。残念ながらその後のレース復帰はならず、緒戦を飾ることはできなかった。レースの方はサバイバルゲームの様相を呈し、サイドマークの中小型艇などは大ブローチング大会。上位の大型艇でもスピンをあげず、ジャイブではなくタックでマークをかわした艇もあったようだ。修正では1位“カラス”だったが、小型艇が予想外に健闘し、2位、3位にはハーフトンの“再見(DIAMOND)”と“RIPPLE III”がそれぞれ入った。トラブル艇

5、6隻にも達した。翌20日もインショアの第4レース。昨日とは違って変わった好天気で風も5~6%という絶好のコンディション。スタートラインは下有利に設定され、また潮の影響で多くの艇が上り切れないことを見越した“カラス”は、最も下のスターボード艇とアウトターの間が10mほどしかないところを鮮やかなポートスタートでラインを突っ切っていった。“カラス”はその勢いを保ち着実にリードを拡げ、第3レースに引き続きこのレースの修正1位を奪った。2位は“BOY”，3位はスリークォーターの“SUMMER KNOWS”。

このレースは、オリンピックナソーセージで27マイルというかなりいいコース。風は安定し、走りがい

のあるよいコースであることは誰もが認めたが、やはりハンディキャップの点からすると、小型艇には分のないコースだとの意見も出ていたようである。

4レースを終った時点で、強敵の“海太郎 V”が戦線から離脱したため、“カラス”が他艇をリード。残りの第5レースでよほどのことがなければ優勝は確実と思われた。2位には“BOY”，“HALF TIME”，“RIPPLE III”が並び、チームでは油壺Bがトップに立った。

シリーズ最後の第5レースは、今年で40回目を迎える伝統の大島レース(葉山-初島-大島-葉山、反時計まわり)。得点は2倍になる。5月26日、午前11時、微風のスタート。このレースは初島から上りのレグ、大島へのアプローチが勝負を決めた。セカンド・グループの一部は思いきり大島内側へつっかけ、島の影響による東へのシフトで先行する大型艇に迫った。大島回航後、一時風も上がったが、“Char Chan”，“SERENDIPITY V”は離されることなく修正1、2位。注目の“カラス”は修正3位に入り、シリーズ総合の艇別1位となった。チーム別では同じく艇別で3位の“Char Chan”，4位の“RIPPLE III”を擁する油壺Bが優勝に輝いた。(成績11P)



艇別で2位に喰い込んだ“HALF TIME”(左)



“海太郎V”は第3レースでデスマスト
第40回大島レースはシリーズ第5戦を兼ねた



1990 RCCミッドサマーフェスティバル

ヒロシマカップ宮島ヨットレース開催要項

主催/NORC西内海支部広島フリート
共催/株式会社 中国放送(通称RCC)
スケジュール/7月28日(土) 安芸グランドホテル

18:00 艇長会議
19:00 前夜祭「思いきりオシャレパー
ティ」多彩なアトラクション等

7月29日(日)
10:00 レーススタート 宮島大島居前
15:00 タイムリミット
16:00 表彰式 安芸グランドホテル

レース海域/宮島大島居~宮島水道

参加資格/クルーザーヨット全般(但し法定検査済の艇
でレース委員会の認可艇)

参加艇数/先着100艇

申込・問合せ先/広島市西上天満町3-19-203(南サトー内)
Tel 082-295-4501 FAX 082-231-5231
〒733

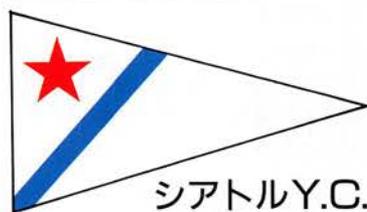
参加料/レース出艇料…1艇 5,000円
前夜祭……………男性 5,000円
女性 3,000円

クラス区分/レーシングクラス
クルージングクラス



須磨Y.C.

S.Y.C.



シアトルY.C.

The 5th TAKARABUNE Regatta

レーニア山に向けてのスピンラン



米国ワシントン州シアトルでは、毎年5月の第1週にボートシーズンの幕明けを飾るオープニング・デイの式典と壮大なボートパレードが行われる。このパレードは規模・内容ともに素晴らしく一見の価値あり、と思われるが、それはさておき、これに先がけシアトルヨットクラブ（以下YCと略す）では4月30日～5月2日にかけて姉妹クラブである

わが須磨YCとの恒例の親善レガッタ『第5回タカラブネ・レガッタ』が行われた。

1982年に始められ、今回で5回目となるこの行事はシアトルと神戸の姉妹都市関係を深めるとともに、友情を養い、2国間の異なった生活や文化を理解するという目標を分かち合うことを目的とし、さらにレースを通じて、日米両チームのセーリング技術・精神の向上を促進する意図も合わせ持っている。

シアトルYCは西海岸でも有数の名門YCで、98年の歴史を持ち、2千名のメンバーを有している。又、数々の名セイラーを輩しており、最近ではロスアンゼルス・オリンピッ

クでFDクラスのジョナサン・マッキーとカール・バックン（金メダル）と、スタークラスのビル・バックン（金メダル）、ソウルオリンピックでは470クラスでチャーリー・マッキー（銅メダル）などが活躍してきた。もちろん大型艇の分野でも数々の名艇を生み出したクラブである。

これに対し、須磨YCは12年前に設立され、メンバーが約400名のローカルなクラブにすぎない。このローカルなクラブが、名門シアトルYCと姉妹クラブ（聞くとところによると姉妹クラブとは、クラブ間のつながりでも最も緊密な関係であるらしい）という光栄な立場になれたのは、ひとつには前述した如くシアト



シアトルヨットクラブのクラブハウス



艇別優勝艇スキッパー、B・トーマス(左端)

ル・神戸の姉妹都市関係が幸いしたこと、須磨YCの名誉顧問で現NORCの副会長である秋田博正氏のご助りに負うところが大きい。氏はこの関係を結んだ立役者であるだけでなく、この行事がシアトルで行われる度に我々に同行し、この関係が円滑に続くよう努力して頂き大変感謝致しております。ともあれ、一担締結した関係をより良い状態で持続させるようクラブを上げて奮闘努力しているというのが現状です。

今回の訪問団はレーサー21名、オブザーバー35名からなる大所帯で、レーサーはホームステイ、オブザーバーについては宿泊設備付きのシアトルで名門のワシントン・アスレティッククラブ泊ということになった。いい年をしたオッサンがホームステイもないもんだが、これが存外選手間の交流に役立ち(数名の選手はシアトルの選手の家ホームステイさせて貰った)、その他ホストファミリーの家にステイさせて頂いた選手達も、言葉の壁を乗り越え、お互いが意志を通じ合う努力をして親密な関係を築いていったようだ。

オブザーバーとして参加した人達も、殆んどマンツーマンのように面倒を見て下さったシアトルYCの方々、ある人は旧交を暖め、初めての人は親交を深めシアトルでの滞在を満喫したに違いない。

今回の訪問団を受け入れるに際し、シアトルYCでは1年以上も前から準備を始め、50~60名からなるコミッティを組織して準備万端我々を迎えてくれたようである。

かつて我々もシアトルYCのメンバーを神戸に迎えるにあたり、同様

の準備を行った経験があり、大変な作業であることも理解している。しかし、お互いを偶するにあたり、このように前向きな姿勢である限り、両クラブの関係も良好であり続けることが可能で有意義なものとなると思う。

100年の歴史を持つクラブから10年そこそこの歴史しか持たないクラブの学ぶことは多い。須磨YCの木南会長は、「我々はシアトルセーラーのセーリング技術やタクティクスを学ぶだけでなく、シアトルYCが組織化されてきた方法や、クラブ活動にも大いに興味がある」と述べた。確かにセーリングに関すること

『第5回宝船レガッタ』に参加して

神戸で開催されたレガッタでは前回の“ウインドセーラー”の艇別優勝など健闘が目立つが、過去2回シアトルに於て、我々須磨チームは上位をすべてシアトルチームに独占されていた。

3度目の渡米を前に我々“春風”は、何とかシアトルチームの一角に食い込みたいと考えていた。笑われるかもしれないが、あわよくば艇別の優勝も狙っていた。十分な練習が出来たわけではないがクルーのキャリアを考えれば決して無謀な目標でもなかったように思う。

レース前、艇上でレース運びについて打ち合わせた。後にも先にもただ一度のミーティングであった。練習日は慣れないこともあり少しどたばたしたが、レース中はトラブルもなくレースに集中することが出来た。練習日を終え各艇ほとんどスピードに差がないと判断し、後は艇のハンドリングとコース次第で必ず上位に食い込めると確信した。

練習日、序盤のレースで地元シアトルチームのコースの引き方に特に注意した。また自分たちの走ってきたコースの風の状態についてもすべて記録しながらそれを生かせるチャンスを持った。

だけでなく、それを培ってきたクラブの存在、意義、優秀なセーラーを育てるジュニアのプログラム、メンバーの協力等、学ぶべきことが多々ある。この部分を除外して一足跳びに結果だけを期待しても虫が良すぎるといふものであるし、間違った方向にも行きかねない。幸いにして、我々須磨YCのメンバーはシアトルYCのそれに触れ、学ぶ機会が与えられ、又この交流行事を通じて多くの友人を得、お互いの理解を深めるチャンスを与えられている。何を学び、何を理解するかは我々次第であり、何をすることも同様だ。今後が楽しみである。須磨YC 永信修治



“春風”チーム。赤帽子が筆者

第4レースでは最初のレグでフィニッシュラインの下手に上りに振れる風のあることを思い出し、その部分に艇を持っていった。第5レースではウェザーマーク回航後、先行艇が止まっているのと左に少し風を感じたので、即ジャイブし次のマークへの最短距離を走り先行艇をすべてパスし2度目のファーストプレイスと艇別総合2位の座を手にした。

練習不足の我々に幸いしたことは、5レース全て軽風から微風の中で実施されたことだった。

“春風”艇長 松井隆尚

タカラブネレガッタ 成績表

順位	スキッパー	レース	①	②	③	④	⑤	TOTAL
①	B.トーマス		3/4	3/4	3/4	5	3	10 1/2
②	松井隆尚		4	7	3	3/4	3/4	15 1/2
③	S.アーチャー		2	6	2	3	7	20
④	J.ウィリアム		3	3	4	7	6	23
⑤	巳斐健一		5	2	7	2	8	24
⑥	M.オブライエン		6	5	5	6	2	24
⑦	永信修治		7	4	6	4	4	25
⑧	池田 隆		8	8	8	8	5	37

写真提供/『ヨットینگ』

TOP50

『第5回海の祭典』 サマーポートフェスティバル

『第5回海の祭典』TOP50サマーポートフェスティバル(主催:『第5回海の祭典』推進協議会、東京港開港50周年記念事業実行委員会)として、7月20日(金)から29日(日)まで、東京晴海ふ頭を中心に様々なイベントが開催されます。メインイベントのひとつが、7月21日(土)に日本で初めて、船を電飾で飾るパレードと、消防艇によるパフォーマンス

放水、陸上においてはディキシーバンド、JAZZバンド、東京税関音楽隊の演奏がある『東京港・光のパレード』です。他には特設ステージの大コンサート『東京ポート・サウンド・フェスティバル』、晴海ふ頭に色々な船が集まり一般公開される『船の見本市』、飲物や軽い食事を取りながら東京港の夜景とジャズを楽しめる『ポートサイド・ジャ

ズ・ステージ』等さまざまなイベントが行われます。



東京港・光のパレード

月日	催事	時間	内容
7月 20日(金) 29日(日)	船の見本市	9:30 ~ 16:00	体験クルーズ船ほか、大型フェリー、巡視船、測量船、潜水調査船、しゅんせつ船などの一般公開、その他多彩な船舶が大集合します。
20日(金) 22日(日) 28日(土)	ポートサイド・ ジャズ・ステージ	19:00 ~ 19:40 20:30 ~ 21:10	20日 クレストフォーシンガーズ 22日 土岐聖典STANDARD JAZZ SESSION 23日 来栖アンナ & ANNABAND 24日 今田勝NOWIN 25日 太陽寿男トリオ+MARICA 26日 鈴木道子+青木弘武トリオ 27日 MARICA & HIP J' S 28日 大橋美加+松尾明トリオ
20日(金)	パワーポート	11:00 ~ 17:00	日本で初めて開催される、迫力ある4時間耐久レース
21日(土) 22日(日)	“宗谷”の無料公開	10:00 ~ 16:30	初代南極観測船“宗谷”が特別無料公開
21日(土) 22日(日) 27日(金) 29日(日)	水上スキー	21・22日 13:00 ~ 16:30 27・29日 13:00 ~ 15:00	アメリカのトッププロスキーチーム『サイプレスガーデン〜スターズ オブ フロリダ〜』による華麗な演技披露。協賛=日本航空(株)
21日(土)	東京港・光のパレード	19:00 ~ 21:00	日本初の電飾船による夜間イルミネーションパレード。主催者船、企業協賛船、および公務艇、港内作業船、MORC会員艇等25~30隻の構成。晴海ふ頭公園では、演奏などのアトラクションを展開し、お台場から進んで来る船団を華やかに迎え入れる
22日(日)	水の消防ページェント	10:00 ~ 11:00	東京消防庁・臨港消防署の協力で消防艇の行進、消火演習、5色放水などのページェント。東京消防庁音楽隊の演奏とカラーガーズ隊のパレード
27日(金) 28日(土)	水上オートバイ	13:00 ~ 16:00	各種モデル約20艇によるデモンストレーション走行
29日(日)	東京ポート・ サウンド・フェスティバル	19:00 ~ 21:00	出演者:杉山清貴(有料イベント) ☎フリップサイド 03-770-8899

会場:『“宗谷”無料公開』は船の科学館前、27日~29日の『水上スキー』はお台場海浜公園、他の催事はすべて晴海ふ頭で行われます。なお『東京港・光のパレード』はお台場海浜公園、13号地公園、船の科学館前からもご覧になれます。
問い合わせ先:TOP50事務局 Tel 03(532)5563

1990 BEST YACHT OF THE YEAR

シリーズキャンペーン開催のご案内

— サントリー株式会社協力 —

海事思想普及委員会
関東支部 広報委員会
外洋ヨットスポーツの活性化、
レース愛好者の底辺拡大を主目的
に、合わせて海事思想普及をはかる
目的で今年度からBEST YACHT
OF THE YEARのシリーズキャン
ペーンを全国展開します。このキャン
ペーンは、レーススポンサーとし
ておなじみの総合飲料メーカーサ
ントリー株式会社の協力によって開催
されるもので、今年は来年1991年の
本格的プロモーション（サントリー
の冠化の予定）の前段・プレイヤー
として位置づけ、各種の試みをしな
がら展開していきます。

'90 BEST YACHT OF THE
YEAR (略称BY Y) はNORC加
盟・登録のIORボートが対象とな

り、年間10戦のポイントシリーズと
なります。BY Yの10戦のライン
アップについては帆走委員会との協
議によって極力全国レベルの広がり
をもたせようとの考えから、今年度
については次の通りになりました。

- 第1戦 コルムフリートシリーズ
(内海) 3月17～3月25日
第2戦 対馬レース (玄海) 5月3
日～5月5日
第3戦 第16回オレンジカップレ
ース (内海) 5月3日～5月5日
第4戦 駿河湾シリーズ (駿河湾)
5月3日～5月5日
第5戦 第13回BMW関東選手権シ
リーズ (関東) 5月12日～5月27日
第6戦 第31回鳥羽パールレース
(本部) 7月27日～7月28日
第7戦 東海チャンピオンシリーズ

- (東海) 9月15日～9月16日
第8戦 第8回ジャパンカップ (本
部) 10月6日～10月12日
第9戦 第35回神子元島レース (関
東) 11月3日～11月4日
第10戦 第28回小網代カップレース
(関東) 11月23日～11月24日

上記10戦それぞれにはスポンサー
のサントリー株式会社からビール、
ソフトドリンク、スポーツドリンク
がレース規模に応じ（その相当数
が）現物提供されます。

なお、10戦シリーズのポイントの
内容については現在、帆走委員会に
て検討が行われていますが、

- (1)『ジャパンカップ』出場を第一条件とする
- (2)10戦のうち『ジャパンカップ』を含めた3レースを出場義務とする
- (3)得点係数は『ジャパンカップ』×2 所属支部レース×0.5 他支部・本部レース×1

等々が決定しており、詳細 (ex各
レースごとの基準ポイントなど) は
近日中に発表の運びとなります。

シリーズ最高得点および上位艇に
対してはスポンサーより賞品その他
表彰が予定されています。IORボ
ートの意欲的な参加をお願いします。

また、10戦に該当する支部、レー
ス委員会におかれましては事前に当
委員会との打合わせが必要でその
で、ご連絡をお願いします。

今月の表紙：シアトル郊外、高級住宅
の立ち並ぶ美しい海岸線をバックに行わ
れた『宝船レガッタ』。(撮影/井上雅恵、
写真提供/ヨットینگ編集部)



写真上：『BY Yシリーズ』第1戦の『コルムフリートシリーズ』。下左：第5戦『BMW関東選手権シリーズ』。下右：各レースのパーティで大人気のサントリービール

OFFSHORE 第182号 平成2年6月15日発行
毎月1回15日発行
昭和52年7月21日 第三種郵便物認可
1部定価300円 (郵送料46円)

発行 社団法人 日本外洋帆走協会
東京都港区虎ノ門1-15-16(船船振興ビル4階)
電話・東京03(504)1911～3 〒105
郵便振替番号2-21787

印刷 明宏印刷株式会社

オースセーリングの予感。



ヨット・モーターボート総合保険

東京海上火災保険株式会社

住友海上火災保険株式会社

お問合せ先：会員代理店またはNORC保険デスク(フリーダイヤル0120-024-410)